

## キリスト教会の誕生

教会はまず、エルサレムで誕生しました。そして、パレスチナから、小アジア、ギリシヤへと、次々に伝道活動を推し進め、ついに、当時の世界の中心ローマにも、その輪は広がっていったのです。人々の激しい反対や迫害にもめげず、弟子たちは力強く、大胆にキリストの教えを伝えました。こうして、世界各地にキリスト教が広まり、教会がつくられる有様が、教会の中心的指導者であったペテロとパウロの活動や体験を軸に、種々の事件をまじえながら展開していきます。

### 使徒の働き（弟子たちの伝道記録）

自分たちの師であったイエス・キリストが捕らえられ、十字架上で殺されたのを知った弟子たちは、ユダヤ人を恐れ、一個所に閉じこもっていました。けれども、その彼らの目前に、復活したイエスが立った時、不安と恐れが消え、イエスこそ人類の救い主であることを、力強く人々に知らせる者と変わったのです。本書は、一地域から、そして、ほんの小さな人々の集まりから出発したキリスト教会の誕生と発展、および、キリストの弟子たちの働きの記録です。

一

1 2 神を愛する親愛な友へ。

この前の手紙では、イエスの生涯とその教えについて書き、イエスが、お選びになった使徒たちに、聖霊によって指示を与え、天に帰られたところまで、お伝えしました。

3 十字架刑のあと、四十日にわたって、イエスは何度も使徒たちに姿を現わされました。自分が、まぎれもなくイエスであることを、さまざまな方法で証明なさったのです。またそのつど、神の国のこともお話しになりました。

イエスの昇天

4 そんなある時のことです。イエスは使徒たちに、こうお命じになりました。「エルサレムから離れてはいけません。前にも言ったように、父が約束を果たしてくださるまで、待っていてください。

5 バプテスマのヨハネは、水でバプテスマ（洗礼）を授けたが、もうじき、あなたがたは

聖霊様によるバプテスマを受けるからだ。」

6そこで、またイエスが姿を現わされた時、使徒たちはわくわくしながら、「主よ。今こそ、イスラエルを解放し、独立国として再興なさるのですか」と尋ねました。

7「それがいつかは、父がお決めになる。あなたがたが、とやかく言うことはできないのだよ。8だが、聖霊様があなたがたに下る時、あなたがたは大きな力を受け、エルサレムからユダヤ全土、そしてサマリヤから地の果てまで、わたしの死と復活を伝える証人となるのだ。」

9こうお答えになると、イエスは、あれよあれよと見守る使徒たちの目の前で、天にのぼり、たちまち雲の中に姿を消されました。10彼らがなおも目をこらして見上げていると、突然、白い着物をきた人が二人、そばに立って言いました。

11「ガリラヤの人たちよ。なぜ空ばかり見上げているのですか。イエス様は天にのぼりましたが、いつかまた、今と同じようにして、地上へ帰って来られるのです。」

12このことが起こったのはオリーブ山でした。そこから一キロほど歩いてエルサレムに戻るとすぐ、1314使徒たちは、泊まっていた家の二階で、祈り会を始めました。そこにいたのは次の人たちです。

ペテロ、

ヨハネ、

ヤコブ、

アンデレ、

ピリポ、

トマス、

バルトロマイ、

マタイ、

ヤコブ〔アルパヨの息子〕、

シモン〔「熱心党」という反体制グループのメンバー〕、

ユダ〔ヤコブの息子〕、

イエスの母、兄弟たち、

何人かの婦人たち。

15この祈り会は数日間続きました。ある日、百二十人ほども集まっていた時、ペテロが立ち上がり、次のように提案しました。

16「皆さん。暴徒どもの手引きをした裏切り者のユダには、聖書のことばどおりのことが起こりました。そうならなければならなかったのです。ずっと昔、聖霊様によって、ダビデ王が預言したことだからです。17ユダは、使徒にも選ばれた、私たちの仲間でした。18ところが彼は、裏切りでもうけた金で畑を手に入れたものの、まっさかさまに落ちて、体が裂け、はらわたがみな飛び出すという無残な死に方をしたのです。19この出来事は、あっという間にエルサレム中に広まり、いつしか、人々はその場所を『血

の畑』と呼ぶようになりました。 20 実は、聖書（旧約）の詩篇の中で、ダビデ王が『彼の家は荒れ果て、だれも住まなくなれ』『彼の仕事を、ほかの人に与えよ』と預言しています。

21 22 だから今、ユダの代わりにほかの人を、イエスの復活の証人に選ばなければなりません。 選ばれる者の資格ですが……、何と言っても、初めから私たちと行動を共にしてきた人でなければいけません。 そう、イエス様がヨハネからバプテスマを受けて以来、別れを告げて天にのぼられるまでの間、ずっと私たちといっしょにいた人です。」

23 一同は二名の候補者を立てました。 ユストというヨセフ〔別名バルサバ〕と、マッテヤです。

24 25 それから、ふさわしい人が選ばれるように、みな一心に祈りました。 「ああ、主よ。 あなた様はすべての人の心をご存じです。 どうぞ、裏切り者のユダの代わりに、二人のうち、どちらを使徒にお選びになるか、お示してください。 ユダは当然行くべき所に行ってしまいました。」

26 いよいよくじを引きます。 当たったのは……、マッテヤです。 こうして、ほかの十一人に、彼が使徒として加わることになりました。

## 二

聖霊が下る

1 さて、イエスの死と復活から、七週間が過ぎました。 五旬節（ユダヤ教の祭りの一つ）の日です。 信者たちが一堂に集まっていると、 2 突然、天からものすごい音がしました。 まるで、激しい風が吹きつけるような音です。 それが、家全体にぐうぐうと響き渡ったのです。 3 そして、めらめら燃える炎の舌のようなものが現われ、みんなの頭上にとどまりました。 4 するとどうでしょう。 その場にいた人は、一人残らず聖霊に満たされ、知りもしない外国語で話し始めたではありませんか。 聖霊が、それだけの力を与えてくださったのです。

5 その日、エルサレムには、たくさんの敬虔なユダヤ人が、祭りのために、世界のあちこちから集まっていました。 6 この大音響に、人々は、いったい何事かと駆けつけましたが、弟子たちの話していることばを聞いて、すっかり面食らってしまいました。 まぎれもなく自分たちの国のことばだったからです。

7 さっぱり訳がわかりません。 ただ口々に、こう言い合うばかりでした。 「こ、こんなことって、あるかい。 みんな、ガリラヤ出身の人だというのに……。 8 それが、私たちの国のことばで、すらすら話している。 9 ここには、パルテヤ人、メジャ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポント、アジヤ、 10 フルギヤ、パンフリヤ、エジプト、それにリビヤのクレネ語が使われている地方などから来た人たちがいるし、ほかにも、ローマからの旅行者で、もともとのユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もいるといったぐあいに様々だ。 11 あっ、そうそう、クレテ人やアラビヤ人もいたっけ。 それがどうだ。 それぞれの生まれ故郷のことばで、神様のすばらしい奇蹟の

話を聞くとはなあ……。」

12 人々はただ呆然として、「いったい、どうなってるんだ？」と顔を見合わせました。

13 しかし、中には、「なに、あいつら、酔っぱらってるだけさ」と、あざける連中もいました。

14 するとペテロが、十一人の使徒と共につかつかと進み出て、声を張り上げ、人々に語りかけました。

「よそから来られた方も、エルサレムに住んでおられる皆さんも、どうぞお聞きください。

15 皆さんの中には、私たちが酒に酔っているのだとおっしゃる方もいますが、そんなことは絶対にありません。酒に酔うには時間が早すぎます。朝の九時から酒を飲む人はいないでしょう。16 いま見ていることは、まさに、何世紀も前に、預言者ヨエルが預言したことなのです。

17 『神は言われる。

終わりの日に、

わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。

その時、あなたがたの息子、娘は預言し、

青年は幻を見、

老人は夢を見る。

18 聖霊は、男女を問わず、わたしに仕える者たちに注がれる。

すると、彼らは預言をする。

19 また、わたしは天と地に不思議なしるしを現わす。  
血と火と煙の雲だ。

20 主の恐るべき日が来る前に、  
太陽は暗くなり、月は血のように赤くなる。

21 しかし、主にあわれみを求める者はみな、  
あわれみを受けて救われる。』

22 ああ、皆さん。これから申し上げることを聞いてください。よくご存じのように、ナザレのイエスは、大ぜいの人の前で、すばらしい奇蹟を行なわれました。神様は、こうして、だれにもはっきりわかるように、イエス様の身元を保証なさったのです。23 神様は、あらかじめ計画したとおり、この方を、あなたがたの手でローマ政府に引き渡し、十字架で処刑することをお許しになりました。24 そうした上で、この方を死の恐怖から解放し、復活させたのです。この方が、ずっと死んだままでいることなど、ありえないことだったからです。

25 ダビデ王は、イエス様のことをこう言っています。

『主はいつも私と共におられる。

主が私を助け、

神の大きな力が私を支える。

26 だから、心は喜びにあふれ、

舌は主をほめたたえる。

たとえ死んでも、私には望みがある。

27 あなたは、私のたましいを地獄に放置せず、

あなたの聖なる息子の体を、

朽ち果てさせることもない。

28 私を生き返らせ、

あなたの前で、すばらしい喜びにあふれさせる。』

29 愛する皆さん。 考えてもみなさい。 ダビデはここで、自分のことを語っているわけではありません。 そうでしょう。 ダビデは死んで、葬られ、その墓は今でも、ちゃんと残っているではありませんか。

30 しかし、彼は預言者でしたから、子孫の一人がメシヤ（救い主）となり、ダビデの王座につくと神が誓われたことは、知っていたのです。

31 それで、遠い将来を望み見ながら、メシヤの復活を預言しました。 メシヤのたましいは地獄に放置されず、その体が朽ち果てることもない、と語ったのです。 32 そのとおり、神様はイエス様を復活させました。 私たちはみな、そのことの証人です。

33 今イエス様は、天で最も名誉ある神の右の座についておられます。 そして、約束どおり、父は聖霊様を送ってくださいました。 その結果、たったいま見聞きしたことが起こったのです。

34 35 いいですね。 ダビデは、決して自分のことを言ったのではありません。 ダビデは天にのぼったことはないからです。 それに、当のダビデが、こうも言っています。

『神は私の主に言われた。

「わたしがあなたの敵を

完全に征服するまで、

わたしの右に座っていなさい。』

36 ですから、イスラエルのすべての人に、はっきり言っておきます。 神様は、あなたがたが十字架につけたイエス様を主とし、キリスト（救い主）とされたのです。」

37 ペテロのことばは、人々の心を強く打ちました。「それじゃあ、私たちはどうすればいいんでしょう。」 あちらからもこちらからも、使徒たちへの質問の声があがりました。

38 ペテロは答えました。 「一人一人が、罪の生活から足を洗って神様に立ち返りなさい。 そして、罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマ（洗礼）を受けなさい。 そうすれば、聖霊様という贈り物をいただけます。 39 それは、キリスト様が約束してくださったのです。 あなたがたは言うまでもなく、あなたがたの子孫、また遠くにいても、私たちの神である主が、ちゃんとお招きになったすべての人にも、与えられるのです。」

40 このあとも、ペテロの説教はえんえんと続きました。 イエスのことや、悪に満ちた

この時代から救われなければならないことを、ことばを尽くして訴えたのです。 4 1 この日、ペテロの言うことを信じた人はバプテスマを受けましたが、その数は全部で三千人ぐらいでした。 4 2 みな、使徒たちの教えをよく守り、聖餐式（キリスト教の儀式の一つ）や祈り会に毎回きちんと出席していました。 4 3 だれもが、心から神様を恐れ敬うようになり、一方、使徒たちは次々と奇蹟を行ないました。

4 4 信者たちはみないっしょにいて、それぞれの持ち物を分け合い、 4 5 金が必要な人には、財産を売り払って与えました。 4 6 毎日、神殿できちんと礼拝をし、聖餐の時は、小人数に分かれてめいめいの家に集まり、心から喜びと感謝にあふれて、食べ物を分け合いました。 4 7 心から神を賛美する彼らに、町中の人は少なからず好感をいただき、神もまた、救われる者を毎日、仲間に加えてくださいました。

### 三

#### 美しの門で

1 ある日の午後、ペテロとヨハネは宮へ出かけました。 日課である午後三時の祈りをするためです。 2 もうすぐ宮だという所で、生まれつき立ち上がることもできない男が運ばれて来るのに、出会いました。 この男は、いつも、宮の「美しの門」のそばに置いてもらい、宮に入る人たちから施しを受けていたのです。 3 二人が前を通り過ぎようとする、「だんな様方。 どうぞお恵みを」と、その男が声をかけました。

4 二人は立ち止まり、男をじっと見つめました。 やがて、ペテロが口を開きました。「私たちをごらん。」

5 男は何かもらえるのだろうと思って、二人を見上げました。

6 ところが、ペテロは全く意外なことを言ったのです。「あげようにも、お金は持っていないんだよ。 だが、ほかのものをあげよう。 ナザレのイエス・キリストの名によって命じる。 さあ、立って歩きなさい。」

7 8 そう言うなり、ペテロは手をかして立たせようとしてしました。 すると、驚いたことに、足もくるぶしもたちまち強くなり、しゃんと立ち上がったのです。 そして、すたすた歩き始めました。 二人が宮に入ると、男も跳んだりはねたりして、神を賛美しながらついて行きます。

9 中にいた人たちは、神を賛美しながら歩いている男を、じろじろながめました。 どうしたことでしょう。 1 0 いつも「美しの門」で見かける、足の悪いこじきではありませんか。 だれもかれもびっくり仰天、たまげ返るばかりです。 1 1 そうこうするうち、みんながいっせいに、三人のいる「ソロモンの廊」と呼ばれる回廊に押し寄せました。 男はうれしくてたまらないのでしょう。 ペテロとヨハネにまつわりついて離れません。 この有様を目のあたりにした人々は、あまりのことに恐ろしくなったほどです。

1 2 さあ、絶好のチャンスです。 ペテロがすかさず話し始めました。

「皆さん。 どうして、そんなに驚くのです？ なぜ、私たちが自分の力や信仰深さによって、この人を歩かせたかのように、私たちを見つめるのです？ 1 3 この奇蹟は、アブ

ラハム、イサク、ヤコブの神様、私たちの先祖の神様が、そのしもベイエスに栄光を与えるために、なさったことです。 その方を、あなたがたはピラトの面前で、はっきり拒否しました。 ピラトがあれほど釈放しようとしたにもかかわらず……。 14 このきよく正しい方を自由にしようと考えるところか、反対に人殺しの男を釈放しろと要求したのです。 15 こうして、とうとう、いのちの源である方を殺してしまいました。 しかし神様は、この方を復活させてくださいました。 ヨハネも私も、このことの証人です。 あなたがたが処刑したあと、私たちは確かに、復活したこの方にお会いしたのです。

16 この方のお名前の力で、この人は治ったのです。 彼の足が以前どんな状態だったかは、ご存じのとおりです。 神様から与えられた、イエスの名を信じる信仰によって、彼は完全に治ったのです。

17 愛する皆さん。 あなたがたは何も知らなかったのでしょうか。 知らなかったからこそ、イエス様をあんな目に会わせたのでしょうか。 それは、指導者連中にも言えることです。 18 しかし神様は、実にこのことによって、メシヤ（救い主）は苦しめられるという預言を実現してくださったのです。 19 ですから、すっかり心を入れ替えて、神様に立ち返りなさい。 そうすれば、神様は罪をきよめてくださいます。 20 そして、すべてを新しくする恵みの時に、メシヤであるイエス様を、もう一度遣わしてくださるのです。

21 22 この方は、昔からの預言どおり、すべてのものが罪ののろいから救われる時まで、天にとどまっていなければなりません。 たとえば、ずっと昔に、モーセは言いました。『神である主は、やがて、私と同じような預言者を起こされる。 この方の語ることはすべて注意深く聞け。 23 この方に耳を傾けない者はだれでも、必ず滅ぼされるのだ。』

24 実に、サムエルをはじめ、それ以後の預言者はみな、現在起こっていることを預言しました。 25 あなたがたは、預言者たちの子孫でしょう。 だったら、神様がアブラハムに与えた、全世界はユダヤ民族によって祝福されるという先祖への約束に、あなたがたも、ちゃんと含まれているのです。 26 神様は自分の息子を復活させると、真っ先にあなたがたイスラエル人のもとに遣わしました。 あなたがたを、罪の生活から引き戻し、祝福なさるためです。」

#### 四

##### ペテロとヨハネの逮捕

1 二人が話しているところへ、祭司たちや神殿の警備隊長、それにサドカイ人たち（神殿を牛耳っていた祭司階級。 ユダヤ教の主流派）が来ました。 2 聞いてみると、二人は堂々と、イエスが死人の中から復活したと話しています。 これはまずい、と思った彼らは、 3 二人を逮捕しましたが、もう夕方だったので、一晩、留置場に入れておくことになりました。 4 しかし、二人の話を聞いた人たちが大ぜい信じ、信者の数は、男だけで五千人に上りました。

5 翌日、ユダヤ人の指導者たちの会議が、エルサレムで開かれました。 6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、そのほか大祭司の一族もみな顔をそろえています。

7二人が一同の前に引き出されました。 いよいよ尋問の始まりです。「おまえたちは、何の力で、まただれの権威で、こんなことをしたのか。」

8その時、ペテロは聖霊に満たされ、落ち着きはらって答えました。「わが国の名誉ある指導者、ならびに長老の方々。 9お尋ねの件は、あの足の悪い男のことで、どのようにして彼が治ったかということでしょうか。 10そのことなら、あなたがた、いや、イスラエルのすべての人たちに、はっきりお話ししたいのです。 この出来事は、あなたがたが十字架につけ、神様が復活させてくださった、あのメシヤ（救い主）、ナザレのイエス様の名と力とによるのです。 11メシヤのイエス様は、まさに『建築士たちの捨てた石が、最も重要な土台石になった』と旧約聖書にある、その石なのです。 12この方以外には、だれによっても救われません。 天下に、人がその名を呼んで救われる名は、ほかにないのです。」

13あまりにも大胆な二人の態度に、議員たちもたじたじです。 しかも二人は、明らかに教育も受けていなければ、宗教の専門家でもありません。 ただただ驚くばかりです。そしてとうとう、イエスといっしょにいたから、そうなったのだ、と認めないわけにはいなくなりました。 14その上、実際に足の治った当の男が二人のそばに立っていたのでは、この事実を否定することもできません。 15しかたなく、二人を退場させ、秘密に協議しました。

16「さあて、あいつらを、どうしよう。 たいへんな奇蹟を行なったという事実は、どうにも否定のしようがない。 なにしろ、エルサレム中の人たちが知っているんだからな……。 17だが、これ以上の宣伝活動はやめさせなきゃならん。 今後イエスのことを人前で語ったら、ただじゃすまないぞと、脅してやろう。」 18話が決まったところで、もう一度二人を呼び入れ、こんりんざいイエスのことを話してはならないと、きつく申し渡しました。

19しかし、ペテロとヨハネは、きっぱり答えました。「神様にではなく、あなたがたに従うことを、神様が望んでおられるとでもお考えなのですか。 20私たちは、イエス様の行なわれたことや、お話しになったことを、知らせないわけにはいきません。」

21議員たちは、なおもしつこく脅しましたが、効き目はありません。 かとって、二人を罰しようものなら、暴動が起りかねないと考え、ついにあきらめ、釈放しました。人々がみな、すばらしい奇蹟を見て、神をほめたたえていたからです。 22なにしろ、四十年も立てなかった人が、完全に治ったのですから、むりもありません。

23晴れて自由の身になると、ペテロとヨハネは、すぐほかの弟子たちのところへ帰り、議員たちの言ったことを残らず伝えました。

祈りと賛美にあふれる教会

24これを聞いた信者たちはみな、心を一つにして祈りました。

「ああ、天と地と海と、その中にあるすべてのものを造られた主よ。 25 26 あなた様は、はるか昔、あなた様のしもべである先祖ダビデの口を通し、聖霊様によって、こう語



られました。

『なぜ異教徒どもは主に怒りを燃やし、  
愚かな国々は全能の神に、むだな抵抗をするのか。  
地上の王たちは一つとなり、  
神とキリストに戦いをしかける。』

27まさに、この預言どおりのことが、今エルサレムで起こっています。ヘロデ王と総督ピラト、それにローマ人どもがみな、イスラエルの人たちと手を組み、あなたが油を注いだ、聖なるしもベイエスに反逆しました。28何もかも、あなた様のお考えのとおりです。連中のやっていることは一つ残らず、知恵ある力によって、あなた様が行なわせているのです。29ああ主よ、どうか今、連中の脅しを聞き、忠実に、しかも大胆に、あなた様の教えを語れるように、私たちをお守りください。30私たちに、病気を治す力を与え、あなた様の聖なるしもベイエスの名によって、奇蹟と不思議なことを行なわせてください。」

31こう祈った時、集まっていた家が激しく揺れ動き、一同はたちまち聖霊に満たされて、大胆に神の教えを語り始めました。

神様へのうそ

32さて、イエスを信じた人たちはみな、心と思いを一つにし、だれ一人、財産を惜しむ者もなく、すべてのものを平等に分け合っていました。33使徒たちは、主イエスの復活を力強く語り、信者同士では、だれもが親しくつき合っていました。3435土地や家を持っている人はみな、それを売り払い、代金を使徒たちのところに持って来ました。そのお金は、必要に応じて、みんなに分配されたので、貧しい者は一人もいませんでした。36一例をあげましょう。キプロス島出身で、レビ族の一人、ヨセフの場合です。彼はバルナバ〔慰めの子〕と呼ばれていましたが、37畑を売った代金を、「困っている人たちに」と言って、使徒たちのところへ持って来ました。

五

1ところが、中にはこんな事件もありました。アナニヤという人が、妻サツピラといっしょに財産を売り払いました。2しかしアナニヤは、代金の一部を手もとに残しておきながら、すまして、「これで全額です」と言って、使徒たちに差し出したのです。妻サツピラと示し合わせた上のことでした。

3しかし、ペテロはそれを見抜いて、彼を責めました。「アナニヤよ。悪魔に心を奪われたのかっ！ これで全額ですと言った時、おまえは、ほかのだれでもない、聖霊様ご自身にうそをついたのだ。4おまえの財産は、売ろうと売るまいと、おまえのものであることに変わりはない。たとえ売ったとしても、その代金をどれぐらい人に施すかも全く自由だ。なのに、どうしてこんなことをしたっ！ わかっているのか。おまえは私たちにじゃなく、神様にうそをついたのだぞ。」

5このことばを聞くと、アナニヤはばたきと床に倒れ、あつという間に死んでしまったの

です。 これを見た人々は、恐ろしさのあまり、ちぢみ上がりました。 6やがて青年たちが、死体を布でおおい、外に運び出して葬りました。

7それから三時間ほどあとでしょうか。 アナニヤの妻が、何事も知らずにやって来ました。 8ペテロは尋ねました。「あなたがたが売った土地の代金は、これで全額ですか。」  
「はい、そうです。」

9「よくまあ、夫婦そろって大それたことを考えたものだ。 聖霊様をだまそうとはな。 見ろ。 おまえの夫を葬った青年たちが、門のすぐそばまで来ている。 おまえも運び出してもらうがいい。」

10ペテロが言い終わるか終わらないかのうちに、サッピラは床に倒れ、息が絶えました。 ちょうどそこへ、青年たちが入って来ました。 確かに死んでいるのを見届けると、その足で運び出し、夫のそばに葬りました。 11教会全体と、この出来事を聞いたすべての人が、言い知れない恐怖にとらわれたことは、言うまでもありません。

12一方、使徒たちは、神殿の「ソロモンの廊」で、定期的に集会を開いていました。 目をみはるような奇蹟も、たくさん行なわれました。 13ほかの人々は、その仲間入りはしないまでも、みな使徒たちを心から尊敬していました。 14こうして、男女を問わず、主を信じる人がますます増えていきました。 15人々はついに、病人をふとんごと通りへかつぎ出し、「せめて、ペテロ様の影だけでもかかれば……」と願うほどになりました。

16また、エルサレム付近の町々からも、大ぜいの人が、病人や悪霊に取りつかれた人たちを連れて来ました。 その人たちは一人残らず、すっかりよくなりました。

また逮捕された使徒

17これを知った、大祭司とその一族であるサドカイ派の人たちはみな、激しいねたみからかれ、 18うむを言わず使徒たちを逮捕し、留置場に放り込んでしまいました。

19しかし、夜、主の使いが来て、留置場の戸を開け、使徒たちを外に連れ出して言いました。 20「さあ宮へ行き、このいのちの教えを、大胆に語りなさい。」

21言われたとおり、使徒たちは夜明けごろ宮へ行き、すぐに説教を始めました。 一方、大祭司とその取り巻き連中は、宮に来て、ユダヤの最高議会と長老全員を召集しました。 さあ、いよいよ尋問を始めようと、人をやり、使徒たちを引き出して来させることになりました。 22ところが、警備員が留置場をのぞいてみると、どうしたことでしょう。 使徒たちの影も形もありません。 びっくりして議会に取って返し、 23「もぬけのからです。 かぎはちゃんとかかっていたし、外には見張りもありましたのに」と報告しました。

24これを聞いた警備隊長や祭司長たちは、さっぱり訳がわかりません。 いったい何事がもち上がるのだろうか、あわてふためくばかりです。 25その時、一人の人が駆つけて、留置場にいるはずの人たちが、宮で説教していると知らせました。

26 27警備隊長は役人たちを伴って出かけ、使徒たちを連行して来ましたが、何一つ、手荒なことはしませんでした。 下手に手出しでもしようものなら、かえって自分たちの

身が危ういと思ったからです。 こうして、ようやく使徒たちが議会に引き出されました。 28 まず、大祭司が問いました。「二度とイエスのことを説教してはならないと、あれほどきつく申し渡したではないか。 それなのに、なんだ。 エルサレム中に教えを広めている。 おまえたちの魂胆はわかっている。 あいつを殺した責任を、私たちにかぶせようというのだ。」

29 しかし、ペテロと使徒たちは答えました。「人間よりも、神様に従うべきです。 30 ご先祖の神様は、あなたがたが十字架で処刑したイエス様を、復活させてくださいました。 31 神様は、大きな力でこの方を引き上げ、神の王子、また救い主となさったのです。 それもみな、罪を悔い改め赦していただく機会を、イスラエルの人々に与えるためでした。 32 私たちは、実にこのことの証人です。 神様に従うすべての人に与えられる聖霊様もまた、このことの証人なのです。」

33 これを聞いた議員たちは烈火のごとく怒り、使徒たちを殺そうと決めました。 34 ところがこの時、一人の議員が立ち上がりました。 パリサイ派（信徒で、特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）のガマリエルで、法律の専門家として名が通っている人物です。 彼は、意見を述べる間、使徒たちを議会から連れ出すことを要求しました。 35 それから、一同に言いました。「イスラエルの皆さん。 あの人たちの扱い方には、よくよく注意してください。 36 しばらく前のことになりますが、チウダという男の事件を覚えておいででしょうか。 この男が、いかにも偉大な人物のように見せかけたため、四百人ほどの者が仲間になりましたね。 ところが結局、当の本人は殺され、一味も、散り散りばらばらになりました。

37 それから、人口調査の時にも、ガリラヤ人のユダという男が民衆をそそのかして反乱を起こしました。 しかし、やはり、この男も死に、仲間も散らされました。

38 それで、提案ですが、あの人たちを放っておいてはどうでしょう。 もし彼らの教えや行動が、ただのでっち上げなら、遅からずくつがえされてしまうでしょう。 39 しかし、もし神様の力によるものだったら、いかなる人といえども阻止はできません。 いや、そればかりか、まかりまちがえば、神様に敵対することにもなりかねません。」

40 説得は効を奏しました。 一同は、ガマリエルの忠告に従うことにしたのです。 そこで、使徒たちをもう一度呼び入れ、むち打ちにし、二度とイエスの名を口にしてはならないと命じてから釈放しました。 41 使徒たちは、神様の名のために、はずかしめを受けたことを、むしろ喜びながら、議会をあとにしました。 42 そして毎日、宮や家家で教え、イエスこそキリストだと宣べ伝えました。

## 六

1 ところが、信者の数がどんどん増えると、内部からも不満の声が出るようになりました。 ギリシヤ語を話すユダヤ人たちが、ヘブル語を話すユダヤ人たちに苦情をぶつけたのです。 事の原因は、彼らの未亡人たちが、毎日の食料の配給で差別待遇されていることでした。

2 そこで十二人の使徒は、信者全員を召集し、こう提案しました。「私たちが食料の配

給に時間をさくのは、よくありません。 何よりも、神様のことばを伝えることにまい進すべきです。 3そこで、愛する皆さん。 この仕事にふさわしい人、賢明で、聖霊様に満たされた人に、いっさいを任せることにしましょう。 さあ回りをよく見回して、この人という人を七人選んでください。 4そうすれば、私たちは祈りと説教と教育に打ち込むことができます。」

5全員がこの提案に賛成し、次の人たちを選びました。

ステパノ〔常に聖霊に満たされた、信仰深い人物〕、

ピリポ、

プロコロ、

ニカノル、

テモン、

パルメナ、

アンテオケのニコラオ〔ユダヤ教に改宗していた外国人で、

今はクリスチャン〕。

6以上の七名が前に立ったので、使徒たちは彼らのために祈り、手を置いて祝福しました。

7こうして、神のことばはますます広まり、エルサレムでは、弟子の数が驚くほど増えていきました。 ユダヤ教の祭司たちの中からも、信仰に入る者が大ぜい出ました。 8さて、ステパノは聖霊の力に満たされた、信仰深い人物で、すばらしい奇蹟を行なっていました。

9ところがある日、「自由民」というユダヤ教の一派の面々が、ステパノに議論をふっかけました。 するとたちまち、クレネやエジプトのアレキサンドリヤ、トルコのギリキヤ地方やアジヤ地方から来たユダヤ人たちも、仲間に加わり、ああでもないこうでもない、と言いだしました。 10しかしステパノは、聖霊に助けられ、知恵のかぎりを尽くして語ったので、だれも、たち打ちできません。

11それで連中は、何人かの者をそそのかし、「彼はモーセや神様を汚すことばを吐いたぞ」と、言いふらさせました。

ステパノの弁明

12こうして連中は、ステパノに対する民衆の怒りをあおり立て、ユダヤ人の指導者たちまで扇動して、とうとうステパノを捕らえ、議会に引いて行きました。 13偽証人どもは、でたらめの証言を並べ立てました。 「こいつは、いつも、神殿やモーセの律法に逆らうことばかり言ってます。 14確かに、こいつが、ナザレのイエスはこの神殿をぶっこわし、モーセの律法をみな無効にしてしまう、とぬかすのを聞きました。」 15この時、議会にいた者は、いっせいにステパノに目をやりました。 するとどうでしょう。 彼の顔は、御使いのように輝いているではありませんか。

・

1 大祭司はステパノに、「この訴えのとおりか」と問いました。

2 ステパノは、答弁を始めました。

「お聞きください、皆さん。 ご先祖アブラハムがまだシリヤに移らない前、つまり、イラクに住んでいたころ、栄光に輝く神様が彼に現われました。 3そして、故郷を離れ、親族とも別れて、神様が命じる国へ行くように、とおっしゃいました。 4そこでアブラハムはカルデヤ人の地を離れ、シリヤのカランに移り、父親が死ぬまでそこに住みました。そのあと神様は、彼をこのイスラエルに連れて来られたのです。 5ところがそこには、彼の土地はたったの一坪もなく、その上、子供もありませんでした。

にもかかわらず、神様は、やがてこの地が全部、アブラハムとその子孫のものになる、と約束されたのです。 6同時に、子孫たちが、この地を去って外国に住み、四百年のあいだ奴隷になるとも言われました。 7ただし、『わたしは、彼らを奴隷とした国民を必ず罰する。 その後、あなたの子孫はこの地に戻り、ここでわたしを礼拝するようになる』との約束を添えて……。

8神様はまた、その時、割礼の儀式（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を定め、それを神様とアブラハムの子孫との契約の証拠となさいました。 それで、アブラハムの息子イサクは、生後八日目に割礼を受けたのです。 このイサクの息子がヤコブで、ヤコブの十二人の息子は、それぞれユダヤ民族の十二部族の長となりました。

9その一人ヨセフは、ほかの兄弟たちのねたみを買ひ、エジプトに奴隷として売られました。 しかし神様は、ヨセフと共にいて、 10あらゆる苦境から彼を救い出し、エジプトの王パロの前で彼に恵みを施されたのです。 神様がヨセフにすばらしい知恵を与えたので、パロはヨセフを、エジプト全土を治める大臣に取り立て、宮中の管理もいっさい任せました。

11ところが、やがてエジプトとカナンの全土に大ききんが起こり、ご先祖たちは、たいへんな苦境に陥りました。 食料がなくなったのです。 12話に聞くと、エジプトにはまだ穀物があるそうです。 ヤコブはさっそく、息子たちをやり、食料を買わせました。

13二度目の時、ヨセフは自分の素性を兄弟たちに打ち明けました。 パロもそのことを知ったので、 14ヨセフは人をやり、父ヤコブと兄弟たちの一族、総勢七十五人を、エジプトに招きました。 15こうして、ヤコブと息子たちはエジプトに住み、そこで死にました。 16遺体はみなシケムに持ち帰り、アブラハムがシケムのハモルの子から買った墓地に葬りました。

17神様がアブラハムに立てた、彼の子孫を奴隷から解放するという約束の 때가 近づくにつれ、ユダヤ人の人口は、エジプトでどんどんふくれ上がっていきました。 18そのうち、ヨセフのことを知らない王が即位し、 19ユダヤ人に悪巧みをはかりました。 事もあろうに、親たちに、子供を野原に捨てさせたのです。

20モーセが生まれたのは、ちょうどこのような時でした。 彼は神様の目にかなった、かわいらしい子供でした。 両親は、三か月の間、家の中に隠しておきましたが、 21

とうとう、それ以上は隠しきれなくなり、しかたなく捨てることにしました。ところが、エジプト王パロの娘が、その子を見つけ、養子として育てることになったのです。22こうして、モーセはエジプトの最高の教育を受け、たくましく、雄弁な王子に成長しました。23四十歳の誕生日が近づいたある日、モーセは、同胞のイスラエル人のところへ行って見よう、と思い立ちました。24ところが、行ってみると、どうでしょう。一人のエジプト人が、イスラエル人を虐待しているではありませんか。モーセはイスラエル人をかばおうとの一心から、相手のエジプト人を殺してしまいました。25モーセは、イスラエル人を助けるために、神様が自分をお遣わしになったと認めてもらえるだろうと、かっぴに決め込んでいました。ところが、現実には、思いどおりにいきません。

26翌日、もう一度出かけて行くと、今度はイスラエル人同士で争っているのにぶつかりました。モーセは間に割って入り、『兄弟同士じゃないか。けんかなんかやめろ』と押しとどめました。

27すると、相手を痛めつけていたほうの男が、よけいな口出しをするな、とわめきました。『やいやい、だれがあんたを、おれたちの支配者や裁判官にしたんだよー。28ええっ、どうなんだい。昨日、あのエジプト人を殺したみたいによー、おれまで殺そうってのかい。』

29これを聞いて、モーセはまずいことになったと、エジプトを逃げ出し、ミデアンの地に身を寄せました。そこで、二人の子供をもうけたのです。

30それから四十年の歳月が流れました。ある日のことです。シナイ山に近い荒野で、御使いが柴の燃える炎の中に現われました。31モーセはその光景に驚き、何かと一目散に駆け寄ってみると、主の声が聞こえてきました。32『わたしはあなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブの神である。』モーセはすっかり震え上がり、顔を上げる勇氣ありません。

33主は続けて語られました。『くつを脱ぎなさい。あなたの立っている所は聖なる地だから。34わたしは、エジプトで苦しめられているわたしの民の姿を見、またその叫びを聞いた。わたしは彼らを救い出そうと下って来たのだ。行け。わたしが、あなたをエジプトに遣わすのだ。』35こうして神様は、『だれがあんたを、おれたちの支配者や裁判官にしたのかよ』と、ユダヤ人たちに退けられたモーセを、もう一度、エジプトに帰らせたのです。モーセは初めて、イスラエル人の支配者、また解放者となったのです。36モーセは、数々の驚くべき奇蹟によって、人々をエジプトから連れ出し、紅海を横断して、四十年にわたる荒野での生活を指導しました。

37このモーセが、『神様はあなたがたの中から、私のような預言者をお立てになる』と、イスラエルの人々に宣言したのです。38モーセは荒野では、神様と人との仲介者でした。すなわち、シナイ山で、神のおきてである、いのちのことばを御使いから受け、それをイスラエルの人々に与える役を果たしたのです。

39しかしご先祖は、モーセの言うことに従おうとせず、しきりにエジプトに帰りたがり

ました。 40そして、アロンに、『私たちをエジプトに連れ帰ってくれる神々の像を作ってくださいよ。 私たちを、エジプトから連れ出したモーセは、どうなったかわかったもんじゃない』と迫りました。 41彼らは子牛の像を作って、供え物をささげ、自分たちが作った物で楽しくやっていました。

4243このため、神様は彼らに背を向け、彼らが日や月や星を神と思い、仕えるのを放っておかれました。 神である主は、預言者アモスの書の中で、こう語っておられます。

『イスラエルよ。 あなたがたは  
四十年の荒野の生活で、  
わたしに、いけにえをささげたことがあるか。  
いや、あなたがたのほんとうの関心は、  
異教徒の偶像にあったのだ。  
モロクの神や星の神ロンパ、  
そのほか自分たちで作った偶像に。  
だから、わたしはあなたがたを、  
バビロンのかなたへ捕らわれの身とする。』

44荒野の旅で、ご先祖は、持ち運びのできる幕屋を、神殿の代わりに携えていました。その中には、神様が下さった十戒を彫った、石の板が二枚ありました。 この幕屋は、神様がモーセに指示なさったとおり、寸分の狂いもなく造ってありました。 45ご先祖は代々、この幕屋を受け継ぎ、ヨシュアの指揮のもとに外国と戦って得た新しい領土に運び込み、ダビデ王の時代までありました。

46さて、神様はダビデ王をたいへん祝福なさいました。 ダビデ王は、ヤコブの神様のために、永久に残る神殿を建てさせてくださいと、熱心に願いましたが、 47実際に建てたのは、息子のソロモン王でした。 48 - 50しかし神様は、人間が造った神殿にはお住みにならないのです。 主は預言者の口を通して、次のように語っておられます。

『主は言われる。  
天はわたしの王座、  
地はわたしの足台。  
いったいどのような家を  
わたしのために建てようというのか。  
わたしが、そのような所にとどまるだろうか。  
わたしが、天と地とを造ったのではないか。』

51ほんとうに、強情な異教徒です、あなたがたは。 いつまで聖霊様にそむき続けるのですか。 かつてのご先祖たちのまねをして……。 52あなたがたのご先祖が、迫害しなかった預言者の名をあげることができたら、一人でもいいから、言ってごらんなさい。 ご先祖たちは、正しい方がおいでになると預言した人たちを殺したのですが、あなたがたは、当のメシヤ(救い主)を裏切り、殺したのです。 53そうです。 あなたがたは、

御使いが手ずから下さった神のおきてを、わざと破っているのです。」

ステパノの死

54 この告発に、ユダヤ人の指導者たちの怒りは爆発しました。 彼らは歯ぎしりしてくやしがりしました。 55 しかし、ステパノは聖霊に満たされ、ぐっと頭をもたげて天を見上げました。 その目に、神様の栄光と神様の右に立っておられるイエス様の姿が、ありありと見えました。 56 「ごらんなさい。 天が開けて、メシヤのイエス様が、神様の右に立っておられますっ！」

57 しかし、そのとき人々は耳をおおい、割れんばかりの大声をあげ、ステパノ目がけて殺到したので、彼の声はほとんど聞き取れないほどでした。 58 人々は、ステパノを石で打ち殺そうと、町の外に引きずり出しました。 証人たち〔死刑執行人たち〕は上着を脱ぎ、パウロという青年の足もとに置きました。

59 石が雨あられと飛んで来る中で、ステパノは祈りました。 「主イエスよ。 私の霊を、私の霊を迎え入れてください。」 60 そして、ひざまずき、「主よ。 どうぞこの罪の責任を、この人たちに負わせないでくださいっ！」と大声で叫んだかと思うと、ついに事切れました。

八

1 パウロは、ステパノを殺すことに大賛成でした。 その日から、激しい迫害の嵐がエルサレムの教会を襲い、使徒たち以外の者はみな、いのちからがら、ユダヤやサマリヤへ逃げのびました。 2 ステパノの遺体は、敬虔なユダヤ人たちの手で、悲しみのうちに埋葬されました。 3 一方、パウロは気違いのようになって、教会を荒らし回り、家々に押し入っては男女を問わず引きずり出し、牢にぶち込みました。

ピリポ、サマリヤへ

4 しかし、エルサレムから逃げ出したクリスチャンたちは、どこへ行っても、イエスのすばらしい知らせを伝えて歩きました。 5 ピリポはサマリヤの町へ行き、人々に、キリストのことを話しました。 6 ピリポが奇蹟を行なったので、みんな彼の話に熱心に耳を傾けました。 7 悪霊どもは大声でわめきながら人々から出て行き、中風の人や足の不自由な人たちも、次々に治ります。 8 今や、町中が喜びにわき返り、大騒ぎです。

9 - 11 さてこの町には、長年、魔術を行なってきた人がいました。 シモンと言い、持ち前の不思議な力で人々をびっくりさせたので、サマリヤ地方でたいへんな影響力を持っていました。 メシヤ（救い主）ではないかと言われたことも、しばしばでした。 12 しかし今は、だいぶ様子が違ってきました。 ピリポが来て、イエスこそメシヤだと教えたからです。 彼が神の国について話すのを聞き、大ぜいの人が信じ、男も女もみなバプテスマ（洗礼）を受けました。 13 そのうちにシモンも信じ、バプテスマを受けることになりました。 彼はピリポの行くところは、どこへでもついて行き、その奇蹟に驚いていました。

14 エルサレムにとどまっていた使徒たちは、サマリヤ人が神の教えを信じたと伝え聞き、



ペテロとヨハネを派遣しました。 15二人はサマリヤに来ると、さっそく、新しいクリスチャンたちが聖霊を受けるようにと祈りました。 16主イエスの名によってバプテスマを受けただけで、まだ聖霊が下っていなかったからです。 17二人が信者たちに手を置いて祈ると、みな聖霊を受けました。

18使徒たちが手を置くと聖霊が与えられるのを見たシモンは、この力を買い取ろうと、お金を持ってやって来ました。 19「お願いします。手を置けば、だれでも聖霊様が受けられるように、私にもその力を下さい。」彼は、声を大にして頼みました。

20しかし、ペテロは答えました。「その金もろとも滅んでしまえっ！金で神様の贈り物が買えるとでも思っているのか。とんでもない了見違いだ。 21心が神様の前に正しくないのに、この特権がいただけるはずはない。 22こんなことは二度とするな。主に祈れ。おまえのような不心得者でも、まだ赦していただけるかもしれない。 23ちゃんとわかってるぞ。おまえの心の中は、ねたみと罪でいっぱいだ。」 24シモンは驚いて叫びました。「ああ、そ、そんな恐ろしいことが起こらないように、祈ってくださいっ！」

25ペテロとヨハネは、このサマリヤの町で、イエスのことを証言したり説教したりしてから、サマリヤ人のあちこちの村へ行って、神のすばらしい知らせを伝えながら、エルサレムへ戻りました。

26ところで、ピリポはどうしたでしょう。主の使いが現われて、「さあ、エルサレムからガザの荒野へ通じる道に、お昼ごろ着くように出かけなさい」と言うではありませんか。

27言われたとおりにすると、エチオピアの女王カンダケのもとで、大きな権力を持ち、女王の財政を管理していたエチオピア人の宦官が向こうから来ます。この人は、神殿で礼拝するためにエルサレムへ行き、 28いま馬車で帰るところでした。ちょうど預言者イザヤの書を、声をあげて読んでいる最中です。

29聖霊がピリポをうながしました。「さあ、あの馬車に近づいて、いっしょに行きなさい。」

30ピリポが走り寄ると、イザヤの書を読んでいるのが聞こえます。そこで、「失礼ですが、その意味がおわかりですか」と尋ねました。

31「残念ながら、だれかが教えてくれないとわかりませんな。」こう答えると、その人は、馬車に乗って、そばに座ってくれと頼みました。

3233読んでいたのは、こういうところでした。

「その方は、殺されるために引かれて行く羊のように、  
また、毛を刈る者たちの前で黙っている小羊のように、  
口を開かなかった。

その方は卑しい者と見なされ、  
正しいさばきも受けなかった。

だれが、この時代の人々の邪悪さを語れよう。

その方のいのちが、地上から取り去られたからには。」

34 宦官はピリポに尋ねました。「その方とは、いったいだれのことです？ イザヤは自分のことを言っているのでしょうか。それとも、だれかほかの人のことを……。」

35 またとないチャンスです。ピリポは、このイザヤのことばかり始めて、旧約聖書のあちこちを引用し、イエスのことをくわしく説明しました。

36 さて、道を進んで行くうちに、水のある所に来ました。すると宦官は、「ごらんない。水がありますよ。ここでバプテスマを受けてはいけない理由はないでしょう。どうです？」と言いました。

37 「心から信じておられるなら、もちろんかまいませんとも。」

「私はイエス・キリストを神の子と信じます。」

38 宦官がはっきり告白したので、馬車を止めさせ、二人して水の中に入り、バプテスマを授けました。39 二人が水から上がった時、主の霊が、あっという間にピリポを連れ去りました。宦官はもう二度とピリポの姿を見ることはできませんでしたが、喜びに胸をはずませ、旅を続けました。40 一方、ピリポはアゾトの町に姿を現わし、そこで、神のすばらしい知らせを伝えました。そして、道々説教しながら、カイザリヤに向かいました。

## 九

### パウロの回心

1 さてパウロは、クリスチャンを全滅させてやろうと、闘志満々、エルサレムの大祭司のところへやって来ました。2 そして、ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれと頼み込みました。それは、ダマスコのクリスチャンを、男だろうが女だろうが、見つけしだい縛り上げ、エルサレムに連行するためのものでした。

3 パウロがこの仕事で、ダマスコの近くまで来た時、突然、天からまばゆい光がさつと彼を照らしました。4 そして、地に倒れた彼の耳に、こう語りかける声が響いてきました。

「パウロ、パウロ。なぜわたしを迫害するのか。」

5 パウロが、「いったい、どなたですか」と尋ねると、「あなたが迫害しているイエスだ。

6 さあ立って、町に入り、わたしの命令を待て」という答えが返ってきました。

7 同行していた人々は驚き、口もきけずに立ちすくんでいました。彼らには、声は聞こえても、イエスの姿は見えなかったからです。89 ようやくパウロは起き上がりましたが、どうしたことでしょう、目が見えません。手を引いてもらって、やっとダマスコに入り、三日間、盲目のまま、何も飲み食いせずに過ごしました。

10 さて、ダマスコにはアナニヤというクリスチャンが住んでいました。主は幻の中で、彼に語りかけました。

「アナニヤよ。」

「はい。」

11 『『まっすぐ』という名の通りに行き、ユダという人の家を探しなさい。そこにタル

ソのパウロという人がいて、いま祈っています。 12 わたしは幻の中で、アナニヤという人が来て、彼に手を置くと、もとどおり見えるようになる、と知らせておいたから。」

13 アナニヤは驚いて、叫びました。 「主よ、パウロですって！あの男がエルサレムのクリスチャンをどんな目に会わせているか、聞いております。 14 それに、祭司長たちから逮捕状をもらい、このダマスコのクリスチャンを一人残らず捕らえる権限を持っているという、もっぱらのうわさです。」

15 しかし、主は言われました。 「さあ、言うとおりにしなさい。 このパウロこそ、わたしの教えを、イスラエル人ばかりでなく、世界中の人々や王たちに伝えるために、わたしが選んだ人です。 16 彼には、わたしのために、どんなに苦しむことになるかを告げるつもりです。」

17 アナニヤは出かけ、パウロを捜し当てました。 そして彼に手を置き、「兄弟パウロ。ここへ来る途中、主にお会いしましたね。 その主イエス様の言いつけでまいりました。あなたが聖霊様に満たされ、また見えるようになるためです」と言いました。

18 するとたちまち、パウロの目から、うろこのようなものが落ち、もとどおり見えるようになりました。 彼は直ちにバプテスマ（洗礼）を受け、 19 食事をすますと、すっかり元気を取り戻しました。 それから数日の間、ダマスコのクリスチャンといっしょに過ごすと、 20 すぐにも会堂へ行き、イエスは神の子だ、と語り始めました。 21 そのことばを聞いて、人々はみな耳を疑いました。 「この人は、エルサレムで、イエスの弟子たちを迫害した張本人じゃないか。 ここへ来たのも、クリスチャンたちをみな縛り上げ、祭司長のもとへ引いて行くためだと聞いていたが……。」

22 しかしパウロは、ますます熱心に、イエスこそほんとうのキリストだと証明したので、ダマスコのユダヤ人たちはまるで訳がわからず、とうとう堪忍袋の緒が切れてしまいました。

23 しばらくして、ユダヤ人の指導者たちは、パウロ殺害を決議しました。 24 そして、昼も夜も町の門を見張りましたが、いつしか、この陰謀はパウロの耳にも入ってしまいました。 25 そこで、パウロの話を聞いて信者になった人たちが、夜の間に、彼をかごに乗せ、町の城壁からつり降ろしました。

26 エルサレムに着いたパウロは、クリスチャンの仲間に加わろうとしましたが、だれもパウロを仲間だとは信じられず、恐れるばかりでした。 27 しかし、バルナバは違いました。 パウロを使徒たちのところへ連れて行き、事の一部始終を説明してやりました。パウロがダマスコに向かう途中で主にお会いしたこと、また主がパウロに告げたことばや、それ以来パウロが、イエスの名によって力強い説教をしたことなど……。 28 それで使徒たちも、ようやくパウロを受け入れました。 それからは、パウロはいつもクリスチャンと行動を共にし、主の名によって大胆に語りました。 29 また、ギリシヤ語を話すユダヤ人と意見を戦わせることもありました。 ところが、彼らの中には、パウロのいのちをねらう連中がいました。 30 それと知った信者たちは、パウロを故郷のタルソへ帰そ

うということになり、カイザリヤまで同行して見送りました。

31 こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの至る所で無事に守られ、どんどん勢力を伸ばしていきました。信者たちは、心から主を恐れつつ、聖霊に慰められながら生活することを学びました。

#### ペテロの奇蹟

32 さて、ペテロは、ほうぼうの信者を訪問する旅の途中、ルダの町にもやって来ました。

33 そこでアイネヤという人に会いました。話を聞くと、八年間も中風で寝たきりだそうです。

34 ペテロは、「アイネヤよ。イエス・キリストが治してくださるのだ。さあ起きて、自分でベッドを片づけなさい」と言いました。するとどうでしょう。アイネヤの病気は、たちどころに治ってしまいました。35 ルダとサロンー帯に住む人々はみな、アイネヤが元気に歩き回っている姿を見て、主イエスを信じるようになりました。

36 そのころ、ヨッパの町にドルカス [かもしか] という名の婦人が住んでいました。クリスチャンで、いつも貧しい人たちのことに心を配り、何かと親切にしていました。37 ところが、このドルカスが病気で死んでしまったのです。友人たちは、葬式の準備をし、遺体を二階に安置しました。38 ちょうど、ペテロが近くのルダにいるということなので、使いを出し、ぜひヨッパまで足を伸ばしてほしいと頼みました。39 ペテロは快く承知しました。彼がヨッパに着くやいなや、人々は待ちかねたように、遺体が安置されている二階の部屋まで連れて上がりました。そこは、生前ドルカスがめんどろを見てやった婦人たちで、いっぱいでした。みな、ドルカスに作ってもらった服などを見せ合っては、涙に泣いています。40 ペテロは、みんなを部屋から出し、やおらひざまずいて祈り始めました。それから遺体のほうを向き、「起きなさい。ドルカス」と声をかけました。すると、なんということでしょう。彼女が目を開けたのです！ ペテロをじっと見、体を起こしたのです！ 41 ペテロは、いたわるように手を取って立たせ、一同を呼び入れました。あつけにとられた人々の前に、ドルカスが立っています……。

42 この話は、またたく間に町中に広まり、大ぜいの人が主を信じました。43 ペテロは長いことヨッパにとどまり、その間、皮なめしのシモンの家に泊まっていました。

#### 一〇

#### 神の使いとコルネリオ

1 カイザリヤに、コルネリオという、ローマ軍の士官がいました。イタリヤ連隊に所属する隊長の一人でした。2 この人はたいそう信仰があつく、一家そろって神を信じていました。また、困っている人には惜しみなく施し、実によく祈る人でもありました。3 ある日の午後、彼は幻を見ました。午後三時ごろのことで、意識ははっきりしていました。幻の中で、御使いが現われ、彼のところへ来て、「コルネリオよ」と呼びかけるではありませんか。

4 じっと御使いを見つめていると、なんだか恐ろしくなりました。「どんなご用でしょ

うか。」

「あなたの祈りも、良い行ないも、神様はすべてご存じです。 56 さあ、ヨッパに使いをやって、シモン・ペテロという人を捜させなさい。 海岸沿いの皮なめし職人シモンの家にいます。 彼に、ここへ来てくれるように頼みなさい。」

7 御使いが姿を消すとすぐ、コルネリオは使用人二人と、神を敬う側近の兵士一人とを呼び寄せました。 8 そして、このいきさつを話し、ヨッパへやりました。

9 - 11 翌日、三人がヨッパの町に近づいたころ、ペテロは祈るために屋上に上がりました。 正午ごろのことで、お腹がすき、食事をしたくなりました。 ところが、昼食の用意がなされている間に、とろとろ夢ごちになったのです。 ふと見ると、天が開け、四すみをつつた大きな布のようなものが降りて来ます。 12 中には、ユダヤ人は食べることが禁じられていた蛇や鳥など、あらゆる種類の動物が入っています。

13 そして、「さあ、どれでも好きなものを料理して食べなさい」という声が聞こえました。

14 「主よ、とんでもありません。 生まれてこのかた、口にしたこともないものばかりです。 ユダヤのおきてで禁じられているのですから。」

15 「ペテロよ、神様に口答えするのか。 神様が、『きよい食べ物だ』と言われたものは、きよいのだ。」

16 同じことが三度あってから、布はすうっと天に引き上げられました。

17 ペテロは、この幻はどういう意味なのだろうと、すっかり考え込んでしまいました。 ちょうどその時です。 コルネリオから遣わされた人たちがシモンの家を探し当て、門口に立ち、 18 「こちらにシモン・ペテロという方が泊まっておいででしょうか」と尋ねました。

19 一方、ペテロは、今しがたの不思議な幻のことをあれこれ考えあぐねていると、聖霊がこうおっしゃいました。 「三人の人が、あなたに会いに来ました。 20 さあ降りて、その人たちに会い、いっしょに出かけなさい。 心配はいりません。 わたしが、その人たちをよこしたのだから。」

21 そこでペテロは下へ降り、「お尋ねのペテロは、私です。 どんなご用でしょうか」と尋ねました。

22 すると三人は、ローマ軍の士官コルネリオが、たいそう信心深い人で、ユダヤ人みんなから好意を持たれていることや、そのコルネリオのもとに現われた御使いが、ペテロを招いて神のことばを聞くように指示なさったいきさつなどを話しました。

ペテロ、コルネリオを訪問

23 ペテロは三人を家に招き入れて一晩泊め、翌日いっしょに出かけました。 ヨッパの信者も数人、同行しました。

24 一行がカイザリヤに到着したのは、次の日でした。 コルネリオは、親類の者や親しい友人たちを呼び集め、一行を、今や遅しと待ち受けていました。 25 そして、ペテロが家に入ると、その前にひれ伏して礼拝したのです。

26 ペテロはそれを押しとどめました。「お立ちなさい。 私は神様じゃありませんよ。」  
27 コルネリオは立ち上がり、しばらく二人で話し合ってから、人々の待つ部屋へ入りました。

28 ペテロは一同に言いました。「このようにして外国人の家に入ることが、ユダヤのおきてで禁じられていることは、よくご存じでしょう。 ところが神様は私に、どんな人をも差別してはならないと、幻で示してくださいました。 29 ですから、お招きを受けた時、何のためらいもなく、やって来たわけです。 ところで、いったいどんなご用があるのでしょうか。」

30 コルネリオが口を切りました。「実は、四日前の午後のことです。 ちょうど今ごろですが、いつものように祈っておりましたところ、突然、輝くばかりの衣をまとった人が、目の前に現われたのです。 31 その人は、『コルネリオよ。 あなたの祈りも良い行ないも、神様はすべてご存じです。 32 さあ、ヨッパに使いをやって、シモン・ペテロという人を招きなさい。 海岸沿いの皮なめし職人シモンの家にいます』とおっしゃいました。 33 それで、すぐあなた様を迎えにやったのですが、こんなに早々とお越しいただいて、何とお礼を申し上げてよいやら……。 私たちは今、主があなた様にお命じになったことを、一つ残らずうかがおうと、こうして神様の前に出て待っているのです。」

34 ペテロは話し始めました。

「神様はただユダヤ人だけを愛しておられるのではないことが、はっきりわかりました。

35 神様を礼拝し、また良い行ないをして神様に喜ばれる人は、どこの国にもいるのです。

36 37 イスラエル人に伝えられた神様のすばらしい知らせのことは、すでにお聞きお喜びでしょう。 全人類の主である救い主イエス様によって、私たちが神様と和解できるということです。 この教えは、バプテスマのヨハネが語り始め、ガリラヤからユダヤ全土に広まりました。 38 ナザレのイエス様は、神の聖霊と力とに満たされて、すばらしいことを行ない、また悪霊に取りつかれている人たちをみな治しながら、ほうぼうを巡回されました。 それは、神様がこの方と共におられたからだということも、きつとご存じでしょう。

39 私たち使徒は、イエス様がイスラエル全国、またエルサレムでなさったすべてのことの証人です。 このエルサレムで、イエス様は十字架につけられたのです。 40 41 しかし神様は、三日後にイエス様を復活させてくださいました。 そしてそのことを、一般の人にではなく、神様があらかじめ選んでおられた特定の証人に、示してくださったのです。 私たちは復活したイエス様とお会いして、いっしょに食事もしました。 42 主は、このすばらしい知らせをすべての人に伝えようと、私たちを派遣なさいました。 それで私たちは、このイエス様が、生きている人でも死んだ人でもすべての人を審判する方として、神様に任命されたのだと証言しているのです。 43 もちろんイエス様のことは、今までのどの預言者も、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪が赦されると証言しています。」

44 ペテロがまだ話しているうちに、聖霊が一人一人に下りました。 45 ペテロに同行して来たユダヤ人のクリスチャンたちは、外国人にも聖霊の贈り物が与えられたので驚きました。 46 47 しかし、疑う余地のない事実です。 人々は自由に他国のことばで話し、神を賛美していたからです。

「私たちと同じく、聖霊様を受けた以上、この人たちにバプテスマ（洗礼）を授けることに、だれも反対できません。」 こうきっぱり言いきると、 48 ペテロは、キリスト・イエスの名によって、バプテスマを授けました。 コルネリオはペテロに、数日間、泊まってほしいと頼みました。

――

#### ペテロの報告

1 まもなく、外国人もクリスチャンになった、というニュースが、使徒やユダヤにいるクリスチャンのもとに届きました。 2 そこでユダヤ人のクリスチャンは、エルサレムに帰ったペテロに、面と向かって、非難をあげました。

3 「外国人と親しくし、おまけに食事までいっしょにしたそうじゃないですか。」

4 それでペテロは、その時のいきさつを包み隠さず話して聞かせました。

5 「ある日、ヨッパで祈っていた時、幻を見たのです。 四すみをつった大きな布が天から降りて来ました。 6 中には、ユダヤ人は食べてはならない、あらゆる種類の獣、爬虫類、鳥が入っていました。 7 そして、『どれでも好きなものを料理して食べなさい』という声がしました。

8 私は必死で、『主よ。 そんなことはできません。 ユダヤのおきてで禁じられているものは、口にすることもありません』と申し上げました。

9 しかし、その声は、『神様がきよいと宣言されたものを、きよくないと言ってはいけない』と言うのです。

10 同じことが三度あってから、布は天に引き上げられました。 11 ちょうどその時、カイザリヤから三人の人が、私のいた家まで迎えに来たのです。 12 聖霊様は、相手が外国人であることなど気にかけず、いっしょに行けとおっしゃいました。 ここにいる六人のクリスチャンも、同行しました。 こうして、使いをよこした人の家に着きました。

13 その人が説明するには、御使いが現われ、ヨッパにいるシモン・ペテロを招け、と言われたというのです。 14 そして御使いは、『ペテロは、あなたとあなたの家の者たちが救われるには、どうしたらよいか教えてください』と告げたそうです。

15 私は彼らに、神様のすばらしい知らせを語りました。 ところが、説教を始めるとすぐ、彼らにも聖霊様が下ったのです。 まさに、あの最初のときと同じ光景でした。 16

その時、私は、『ヨハネは水でバプテスマ（洗礼）を授けたが、あなたがたは聖霊様によってバプテスマを授けられる』と言われた主のことばを、ふと思い出したのです。 17 私たちが、主イエス・キリストを信じた時に与えられたのと同じ贈り物が、外国人にも与えられたという、まぎれもない事実を前にしては、だれが神様に、とやかく申せましょう。」

18 ペテロの説明に、疑問は氷解しました。一同は、「神様は、外国人にも、神様に立ち返って永遠のいのちをいただく特権を、お与えになったのだ」と、口々に神を賛美しました。

#### アンテオケ教会の成立

19 一方、ステパノの死をきっかけとして起こった迫害のために、エルサレムから逃げ出したクリスチャンは、フェニキヤ、キプロス、アンテオケにまでも足を伸ばしました。そしてそれぞれの所で、神様のすばらしい知らせを語ったのですが、相手はユダヤ人に限られました。20 しかし、何人かのキプロス出身とクレネ出身のクリスチャンは、アンテオケで、主イエスについての教えを、ユダヤ人だけでなく、ギリシヤ人にも伝えました。

21 主がいっしょに働かれたので、大ぜいの外国人がクリスチャンになりました。

22 このニュースを耳にすると、エルサレムの教会は、新しくクリスチャンになった人たちを助けようと、さっそくバルナバを派遣しました。23 アンテオケに到着したバルナバは、神のなさるすばらしいことを見て、深く感動し、喜びにあふれました。そしてクリスチャン一人一人に、どんな犠牲をはらってでも、絶対に主から離れないようにと忠告し、励ましました。24 バルナバは聖霊に満たされた、信仰のあつiriっぱな人でした。こうして、たくさんの人が主イエスを信じるようになったのです。

25 このあと、バルナバはパウロを捜しに、タルソへ行きました。26 捜し当てると、アンテオケに連れて来て、二人でまる一年とどまり、新しくクリスチャンとなった多くの人々を教えました。〔そもそも、このアンテオケで、キリストを信じる者たちが、初めてクリスチャンと呼ばれるようになったのです。〕

27 ちょうどそのころ、何人かの預言者がエルサレムからアンテオケにやって来ましたが、28 その中の一人アガボが、ある集会の席上で、大いきんがイスラエル全地に起こる、と聖霊によって預言しました。はたしてこの預言は、クラウデオの治世に事実となりました。29 そこで、アンテオケのクリスチャンは、協議の結果、ユダヤのクリスチャンのために、できる限りの援助をすることになりました。30 そう決まると、さっそく実行に移し、救援物資をバルナバとパウロに託して、エルサレム教会の長老たちのもとへ届けました。

#### 一二

#### ペテロの逮捕と救出

1 そのころ、ヘロデ王は一部のクリスチャンに迫害の手を伸ばし、2 ヨハネの兄弟、使徒のヤコブを血祭りに上げました。34 このことで、ユダヤ人の指導者たちが上きげんになったことを知ると、今度はペテロを逮捕しました。ちょうど過越の祭りの最中だったので、祭りが終わりしだい、処刑のためにユダヤ人に引き渡すつもりで、牢にぶち込み、十六人の兵士に監視させました。5 教会では、そのあいだ中、ペテロをお守りくださいと、熱心な祈りを神様にささげていました。

6 処刑前夜、ペテロは二人の兵士にはさまれ、二重の鎖につながれて眠っていました。牢



獄の門の前には、ほかの番兵が立っています。 7 そのとき突然、牢獄の中が、ぱっと光り輝き、主の使いが現われました。 御使いはペテロのわき腹をつついて起こし、「さあ、立って、立って。 急ぎなさい」と言いました。 そのとたん、鎖が手首からはずれました。 8 「身じたくを整えて、くつをはきなさい。」 ペテロがそのとおりにすると、今度は、「さあ上着をきて、ついて来なさい」と命じます。

9 ペテロは牢獄を出て、御使いについて行きましたが、その間ずっと、夢か幻でも見ているような気分で、どうしても現実のこととは思えません。 10 第一、第二の見張り所を通り抜け、とうとう町に通じる鉄の門の前までやって来ました。 するとその門も、ひとりでに開くではありませんか。 二人はなんなく外に出て、次の通りまで歩いて行きました。 そのとき御使いの姿は、かき消すように見えなくなりました。

11 ペテロは初めて我に返り、やっと何が起こったかに気づきました。 「夢じゃない、夢じゃないんだ。 主が御使いを遣わし、ヘロデの手から、またユダヤ人どものたくらみから、救い出してくださったのだっ！」 12 何もかもはっきりすると、彼は、マルコと呼ばれるヨハネの母マリヤの家へ急ぎました。 そこには大ぜいの人が集まり、祈っていました。

13 ペテロは玄関の戸を、どんとたたきました。 その音を聞きつけて、ロダという女中が取り次ぎに出て来ました。 14 ところが、声の主がペテロだとわかったと、喜びのあまり、戸を開けることも忘れて、そのまま家の中に走り込み、みんなに、ペテロが帰って来たと知らせました。 15 しかし人々は、「気でも狂ったのか」と言って、取り合おうとしません。 しかし彼女があくまで言いはるので、「それじゃ、きっとペテロについている御使いだ〔とすると、ペテロは殺されたに違いない〕」と、言い合いました。

16 一方ペテロは、そのあいだ中、戸をたたき続けていました。 やつと人々が出て来ました。 戸を開けた時の、彼らの驚きようといったらありません。 17 ペテロは手ぶりでその場を静め、何が起こったのか、主がどのようにして牢獄から出してくださったかを話しました。 そして、「ヤコブやほかの信者たちにもこのことを知らせてほしい」と言って、安全な場所へ立ち去りました。

18 朝になると、牢獄では、ペテロはいったいどこに行ったのかと、上を下への大騒ぎです。 19 ペテロを引き出そうとしたヘロデは、ペテロがいなくなったと知るや、十六人の番兵を片っぱしから逮捕して、軍法会議にかけ、全員に死刑を宣告しました。 ヘロデはその後、カイザリヤに行き、しばらくそこにとどまりました。

20 ヘロデはツロとシドンの住民に激しい敵意をいだいていましたが、カイザリヤ滞在中に、この二つの町の代表者たちが、王の侍従ブラストに取り入って、和解を申し出ました。 というのも、二つの町は経済的にヘロデの国との交易に頼っていたからです。 21 会見の約束ができ、いよいよ、その当日です。 ヘロデは王服を着けて王座に座り、彼らに向かって演説を始めました。 22 演説が終わると、彼らは大喝采を送り、大声で、「神様の声だっ！ とても、人間の声とは思えない」と叫びました。

23するとたちまち、御使いが、ヘロデを罰したので、彼は病気になり、やがて体中にうじがわいて、死んでしまいました。 神だけにふさわしい栄光を横取りし、身のほど知らずにも、人々の礼拝を受け、神に栄光をお返ししなかった報いです。

バルナバとパウロ

24神のすばらしい知らせはますます広まり、新しいクリスチャンが大ぜい誕生しました。

25エルサレムを訪問したバルナバとパウロは、務めを果たしたあと、ヨハネと呼ばれるマルコを連れて、アンテオケに帰りました。

■

一三

1アンテオケの教会の預言者や教師たちの中には、次の人たちがいました。 バルナバ、シメオン〔別名「黒い人」〕、ルキオ〔クレネ出身〕、マナエン〔ヘロデ王とは乳兄弟〕、それにパウロなどです。 2ある日、これらの人たちが礼拝をささげ、断食していると、聖霊が、「バルナバとパウロに、わたしの特別な仕事をさせなさい」と言われました。 3それで、さらに断食して祈ったあと、二人に手を置いて任命し、出発させました。

4二人は聖霊に導かれてセルキヤに行き、そこから、船でキプロス島に向かいました。 5島のサラミスという町に着くと、さっそくユダヤ人の会堂に出向いて説教です。 ヨハネと呼ばれるマルコも、助手として同行しました。 67このあと、町から町へと、島中を巡り歩いて説教を続け、最後にパポスという町にきました。 そこで、偽預言者でバルイエスと名乗る魔術師に出会ったのです。 この男は、総督のセルギオ・パウロの取り巻きの一人でしたが、総督自身は物事に明るい、たいへん理解のある人でした。 かねがね神の教えを聞きたいと思っていた総督は、この機会にバルナバとパウロとを招きました。 8ところが、強力な反対者が現われました。 魔術師エルマ〔バルイエスのギリシヤ名〕です。 彼は、パウロやバルナバのことばに耳を傾けないようにとそそのかし、何としても、総督に主を信じさせまいとやっきになりました。

9しかし、パウロは聖霊に満たされ、魔術師をきつとにらみつけ、 10「悪魔の子、ペてん師めっ！ おまえのように悪事にたけたやつは、正義の敵だ。 どこまで主に反抗するつもりか。 11さあ、神様のさばきを受けるがいい。 そうだ。 おまえは盲目になる。 しばらくの間、日の光が見えなくなるのだっ！」とどなりつけました。

するとたちまち、かすみとやみとが彼をすっぽりおおい、彼は、「おーい、だれか手を引いてくれーっ」と叫びながら、手さぐりで歩き回りました。 12この出来事を目のあたりにした総督は、神を信じ、今さらのように神の教えの偉大さにびっくりしました。

トルコへ

13さて、パウロ一行はトルコに向かうため、船でパポスを発ち、ペルガの港に上陸しました。 ここまで来ると、マルコは二人を捨て、一人でさっさとエルサレムに帰ってしまいました。 14しかしバルナバとパウロは、ピシデヤ地方の町、アンテオケに行きました。

安息日になり、二人は会堂へ出かけました。礼拝をするためです。 15いつものとおり、モーセの書と預言者の書からの朗読がすむと、会堂の管理人たちが、二人に言ってよこしました。「おふた方。何かお話ししていただけますか。よろしかったら、願います。」

16そこで、パウロが立ち上がり、会衆にあいさつしてから、話し始めました。

「イスラエルの人たち、ならびに、ここにおられる神様を敬う皆さん、お聞きください。まず、私たちの歴史からお話ししましょう。

17イスラエルの神様は、私たちのご先祖をお選びになりました。そして、エジプトで奴隷にされた彼らを、目を見張るような方法で救い出し、名誉を回復してくださったのです。 18彼らが荒野をさまよい歩いた四十年の間も、ずっと養い続けてくださいました。

1920また、カナンの子七つの民族を滅ぼし、その土地を相続財産として、分配なさいました。こうなるまでに約四百五十年もかかりました。そのあとは、預言者サムエルが現われるまで、さばき人が国の秩序を保っていたのです。

21やがて人々は、王がほしいと言いました。そこで神様は、ベニヤミン族のキスの息子サウロを王とし、四十年間、国を治めさせました。 22しかし、そのサウロも神様に退けられ、代わりにダビデが王になりました。このダビデのことを、神様は『エッサイの息子ダビデこそ、わたしの心にかなう者、わたしの意志に完全に従ってくれる者だ』と言われました。 23このダビデ王の子孫から、約束どおり、イスラエルの救い主、イエス様を起こしてくださったのです。

24この方がおいでになる前に、バプテスマのヨハネは、イスラエルの全国民が罪を捨て、神様に立ち返らなければならないと教えました。 25そのヨハネが、働きを終える時、こう言いきったのです。『あなたがたは、私をだれだと思っているのか。私はメシヤ（救い主）ではない。ほんとうのメシヤはまもなくおいでになる。この方に比べれば、私など、全く取るに足りない。』

26アブラハムの子孫の方々、ならびに、神様を敬う外国人の皆さん。この救いは、私たちみんなのものです。 27エルサレムにいるユダヤ人とその指導者たちは、イエス様を処刑することで、皮肉にも、預言を実現させたのです。安息日ごとに預言者のことが読まれるのを聞きながら、イエス様こそ、その預言されたお方であることを認めようともしませんでした。 28そして、正当な理由は何一つなかったのに、どうしても死刑にしてほしいと、ピラトに要求したのです。 29こうして、何もかも預言どおりに、イエス様は死なれたのです。そのあと、イエス様の遺体は十字架から降ろされ、墓に葬られました。

30しかし神様は、このイエス様を復活させてくださったのです。 31イエス様は幾日もの間、ガリラヤからエルサレムまで、ずっと行動を共にした人たちに、たびたび姿を現わしました。復活のイエス様にお会いした人たちはいつも、人々に、このことを証言し続けてきたのです。

3 2 3 3 バルナバと私もまた、この喜ばしい知らせを伝えようと、こうして、わざわざやって来たのです。 その知らせとは、神様がイエス様を復活させたことによって、私たちのご先祖への約束が、今の時代に実現したということです。 旧約聖書の詩篇の第二篇に、『今日、わたしはあなたに、子としての名誉を与えた』とあるとおりです。

3 4 神様はイエス様を復活させ、二度と死なない方となさいました。 聖書に、『わたしはダビデに約束したすばらしい祝福を、あなたがたに与える』とあるとおりです。 3 5 また詩篇のほかの箇所では、もっとはっきりしています。『神様は、ご自分の聖なる方が、朽ち果てるのをお許しにならない。』 3 6 これは、ダビデのことではありません。ダビデは、神様のお心のままに、当時の人たちに仕えた後、死んで葬られ、その体は朽ち果てたからです。 3 7 しかし、神様が復活させた方は、墓の中で朽ちはしませんでした。

3 8 聞いてください、皆さん！ このイエス様こそ、皆さんの罪を赦してくださるのです。

3 9 イエス様を信じる人はみな、すべての罪から解放され、正しい者と宣言されるのです。これは、モーセの法律では、どうしてもできないことでした。 4 0 くれぐれも注意してください。 預言者たちの次のことばが、皆さんに的中しないように。

4 1 『見ろ。 そして滅べ。

真理を見下す者どもよ。

おまえたちの時代に、一つのことをしよう。

どんなに説明しても、

とうてい信じられないことを。』

4 2 その日、会堂からの帰り道、人々はパウロに、次の週も、また話してほしいと頼みました。 4 3 礼拝が終わってからも大ぜいのユダヤ人や信心深い外国人が、パウロとバルナバについて来たのです。 二人は、その人たちに、神の恵みを受けるようにと教えました。 4 4 次の週の礼拝には、町中の人々がこぞって詰めかけ、二人が神のことばを話すのを聞こうとしました。

4 5 しかし、ユダヤ人の指導者たちは、この群衆を見て、ねたみに駆られ、口ぎたなくののしり、ことごとくパウロに反対しました。

4 6 そこでパウロとバルナバは、きっぱり言ってやりました。 「この神様からのすばらしい知らせは、まずあなたがたユダヤ人に伝えられるはずだった。 だが、あなたがたはそれを突っぱね、永遠のいのちを受けるにふさわしくない者であることを、自分から証明したのだ。 いいだろう。 これからは、このすばらしい知らせは、外国人に伝えよう。

4 7 主のご命令のとおりにな。 主は、『わたしはあなたを外国人の光とした。 地の果てから、人々を救いに導くためである』と言っておられるのだ。」

4 8 これを聞いた外国人たちは、うれしさを隠しきれません。 喜んで、パウロの話に耳を傾けました。 そして永遠のいのちを求める人はみな、信仰に入りました。 4 9 こうして神の教えは、この地方全体に広まったのです。

5 0 しかし、ユダヤ人の指導者たちも、おとなしく引き下がってはいません。 うまいこ

と信心深い婦人や町の有力者たちをそそのかし、パウロとバルナバを迫害したあげく、とうとう町から追い出してしまいました。 5 1 二人は、その町と縁を切るしるしに、足のちりを払い落とし、イコニオムへ向かいました。 5 2 一方、主を信じた人たちは聖霊に満たされ、喜びにあふれていました。

#### 一四

1 イコニオムの町でも、パウロとバルナバは連れ立って会堂に行き、力強く語ったので、ユダヤ人も、外国人も、大ぜい信じました。

2 しかし、神のことばを軽んじるユダヤ人たちは、根も葉もないことで二人を中傷し、人々の不信をかき立てました。 3 それにもかかわらず、二人は長い間そこに滞在し、大胆に説教を続けたのです。 主は、すばらしい奇蹟を行なわせ、二人のことばが真実であることを証明なさいました。 4 ところが、町の人たちの意見は真っ二つに分かれました。 ユダヤ人の指導者側の意見に、もろ手を上げて賛成する連中があるかと思うと、使徒たちの味方につく者もあるといったぐあいです。

#### ルステラでの出来事

5 6 外国人とユダヤ人たちが、ユダヤ人の指導者たちとぐるになり、二人を襲い、石で打ち殺そうとたくらんでいるという情報が、二人の耳に入りました。 二人は、急いで町を出ると、ルカオニヤの町のルステラとデルベ、またその周辺に難をのがれ、 7 そこで、神様のすばらしい知らせを伝えました。

8 ルステラにいた時のことです。 一人の足の立たない人に出会いました。 生まれてこのかた、一步も歩いたことがない人でした。 9 その人がパウロの説教に、一心に耳を傾けていたのです。 当然、パウロの目にとまりました。 その人に、治されるだけの信仰があると見抜いたパウロは、 10 大声で、「立ちなさい」と呼びかけました。 その瞬間、その人はとび上がり、勢いよく歩きだしたのです。

1 1 これを見た人々は、その地方のことばで、「神々だ。 人間の姿をした神々だ」と叫びだしました。 1 2 そして、わいわい騒ぎながら、二人をギリシヤの神々にまつり上げたのです。 バルナバはゼウス、パウロはおもに話をしたので、ヘルメスだということになりました。 1 3 町の門のすぐ外にある、ゼウス神殿の祭司までが、花飾りを持って駆けつけ、門のところで群衆といっしょに、雄牛を数頭いけにえとし、二人にささげようとするではありませんか。

1 4 バルナバとパウロは、この神を汚すふるまいに仰天し、着物を引き裂いて、群衆の中に駆け込み、大声で叫びました。

1 5 「皆さん。 なんとということをするのです。 私たちは、皆さん同様、ただの人間じゃありませんか。 こんなばかばかしいことは、おやめなさいっ！ 天と地と海、それにその中のすべてのものをお造りになった神様を礼拝しなさい。 私たちは、そのために、すばらしい知らせを持って来たのです。 1 6 過去の時代には、神様はあらゆる国民が、それぞれ自分勝手な道に進むことを許しておられました。 1 7 といっても、神様のことが

全然わからなかったわけじゃありません。 神様を思い起こさせるものは、いつでも私たちの周囲にあったのです。 たとえば、雨を降らせてくださったのも神様ですし、食べ物が不足しないようにと、すばらしい収穫をあげさせ、喜びに満たしてくださったのも、ほかならぬ神様なのです。」

18 こうして、パウロとバルナバは、やっとのことで、いけにえをささげるのを、やめさせました。

19 しかし、その数日後、また別の事件が起こりました。 アンテオケとイコニウムから数人のユダヤ人が来て、町の人たちを味方に引き入れ、パウロを襲ってさんざん石を投げつけ、町の外へ引きずり出したのです。 ぐったりとしたパウロを見て、てっきり死んだものと思ったからです。 20 クリスマンたちはぐるっと回りを取り巻き、心配そうにながめていました。 するとどうでしょう。 当の本人はむっくり起き上がり、何事もなかったように町へ帰って行ったのです。

翌日、パウロはバルナバといっしょに、デルベに向けて出発しました。 21 そこで神のすばらしい知らせを語り、大ぜいの人をクリスマンにしてから、ルステラ、イコニウム、アンテオケへと引き返しました。 22 それぞれの町でクリスマンたちに会い、ますます神を愛し、また互いに愛し合うように教え、どんな迫害にもくじけず、信仰にとどまり続けるようにと励ましました。 そして、「神の国に入るには、いろいろ苦しい目に会わなければならない」と語りました。 23 二人は、どこの教会でも長老を任命し、彼らのために断食して祈り、だれよりも信頼する主にゆだねました。

24 それがすむと、ピシデヤを通してパンフリヤに帰り、 25 また、ペルガで説教してから、アタリヤに行きました。

26 そしてついに、船でアンテオケに帰って来たのです。 この町は、今まさに終えたばかりの務めを、神からゆだねられ、出発した所でした。 27 二人はさっそく信者たちを集めて、伝道旅行の報告をし、神は外国人にも信仰の門を開いてくださったと話しました。 28 それから、かなり長い間、アンテオケで、信者たちといっしょに過ごしました。

一五

#### 最初の教会会議

1 パウロとバルナバがアンテオケにいた時のこと、ユダヤから来た人たちが、クリスマンに、古いユダヤの習慣どおり割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けなければ救われない、と教え始めました。 2 パウロとバルナバは、このことで彼らと激しく対立し、大論争が持ち上がりました。 それでとうとう、この地方の人を何人かつけて、パウロたちをエルサレムにやり、この問題について使徒や長老たちと協議してもらうことになりました。 3 一行は、町の外で、教会員全員の見送りを受けて出発しました。 途中フェニキヤとサマリヤの町に立ち寄り、外国人も次々に主イエスを信じるようになったというニュースを告げて、クリスマンを大いに喜ばせました。

4 エルサレムに着くと、教会員と指導者たち——使徒全員と長老たち——一同が出迎えま

した。そこで、パウロとバルナバは、今回の伝道旅行で、神がどんなことをしてくださったか、ありのままを報告しました。 5しかし、主イエスを信じる以前はパリサイ派だった人たちのうちの何人かが立ち上がり、外国人といえども、クリスチャンになった以上は、割礼を受け、ユダヤの習慣や儀式を残らず守るべきだと主張しました。 6そこで使徒と長老たちは、この問題に決着をつけるため、会議を開きました。

7激しい論争が続いたあと、ペテロが立ち上がり、意見を述べました。

「皆さん、お忘れですか。 ずっと以前、外国人もこのすばらしい知らせを聞いて信じるために、神様が私をお選びになったことを。 8人の心を何もかもご存じの神様は、ご自分が外国人をも受け入れておられることをわからせようと、私たち同様、彼らにも聖霊様を与えてくださったではありませんか。 9神様は、外国人とユダヤ人を少しも差別なさいません。 だからこそ、私たちと同じように、信仰によって、彼らの心をもきよめてくださったのです。 10それなのに、どうして、私たちにしても、私たちのご先祖にしても背負いきれなかった重荷を、彼らに負わせようとするのですか。 そんなことをしたら、それこそ、神様がなさったことを訂正するようなものです。 11私たちは、すべての人が同じ方法で、すなわち、主イエス様が一方的に与えてくださった恵みによって救われる、と信じているのではありませんか。」

12これを聞くと、あえてそれ以上、議論する者はいなくなりました。 そして一同は、神様が外国人の間で行なわれた奇蹟について語る、バルナバとパウロの話に、耳を傾けました。

13話が終わると、ヤコブが立ち上がりました。 発言するためです。

「皆さん、お聞きください。 14今しがたペテロは、神様が初めて外国人に目をとめ、その中から御名をあがめる者たちを起こされた時のことを、話してくれました。 15この事実は、預言者たちの預言とも一致します。 次のように書いてあるとおりです。

16『この後、わたしは帰って来て、  
とざれていたダビデとの契約を更新する。

17わたしを信じる人たちがみな、  
外国人も含めて、主を見いだすためである。

18初めから、ご計画を示してこられた神が、  
こう言われる。』

19ですから、これはあくまで私の判断ですが……、神様に立ち返る外国人に、ユダヤ人のおきてを押しつけるべきではありません。 20ただ、偶像に供えた肉を食べること、あらゆる不品行、しめ殺した動物の肉を血を抜かないまま食べること、また血を食べることはやめるように言ってやればいいでしょう。 21どこの町でも、ユダヤ人の会堂では、安息日ごとに、何代にもわたって、このことに反対する説教がなされてきたからです。」

22使徒や長老たちをはじめ会衆一同は、パウロとバルナバと共に、アンテオケまで代表を派遣し、この決定事項を報告することを決議しました。 そこで選ばれたのが、教会の

指導者、ユダ〔別名バルサバ〕とシラスでした。

23 二人が持って行った手紙には、こう書いてありました。

「使徒および長老たち、ならびにエルサレムのクリスチャンから、アンテオケ、シリヤ、キリキヤの外国人クリスチャンの皆様へ、

24 こちらから行った何人かのクリスチャンが、いろいろなことを言って、皆様をまどわせ、救いにまで疑問をいだかせたことを、確かにうかがいました。しかし、誤解なさないでください。私たちがそのような指示を与えたわけではありません。25 それでこの際、愛するバルナバとパウロと共に、二人の正式な代表を派遣するのが最もよい方法だと、全会一致で決議しました。26 27 代表のユダとシラスは、主イエス・キリストのために、いのちを危険にさらしてきた人たちです。この人たちが、今回の問題についての決定を、口頭でお伝えするはずです。

28 29 すなわち、偶像に供えた物を食べないこと、しめ殺した動物の肉は、血を抜かないままで食べないこと、血を食べないこと、それから、もちろん不品行を避けることです。これ以外のユダヤ人のおきてを押しつけるようなことは、好ましくありません。それは、聖霊様もお示しになったことですし、私たちも、そう判断するのです。皆様には、これだけ守っていただければ十分です。敬具」

30 四人は、すぐにアンテオケに向かい、クリスチャンの総会を召集して、この手紙を手渡しました。31 人々が、この手紙で、たいへん慰められ、喜びにあふれたことは、言うまでもありません。

32 ユダとシラスは、二人ともすぐれた説教者だったので、多くの説教をして、人々の信仰を力づけました。33 こうして数日が過ぎました。ユダとシラスは、エルサレム教会への感謝とあいさつを託されて、帰って行き、34 35 パウロとバルナバは、そのままアンテオケにとどまりました。そこで説教したり教えたりしている人たちに、協力したのです。

パウロとバルナバ決裂

36 しばらくたつと、パウロはバルナバに、「どうだろう、またトルコへ行つては？ 以前に説教した、ほうぼうの町で、クリスチャンたちが、その後どうしているか、ぜひこの目で確かめようじゃないか」と誘いかけました。37 バルナバも、これには賛成でした。ところが、問題はだれを連れて行くかです。バルナバはマルコと呼ばれるヨハネを考えていました。38 しかし、パウロは反対でした。というのは、ヨハネはこの前の時、パンフリヤで、さっさと一人だけ先に帰ってしまったからです。39 二人の対立は相当に激しく、ついに別行動をとることになりました。バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡りました。40 41 一方、パウロはシラスに白羽の矢を立てました。二人は人々の祝福を受けて、陸路シリヤとキリキヤに向かい、ほうぼうの教会を力づけました。

一六

1 パウロとシラスがまず行ったのは、デルベでした。それからルステラに行き、そこで、



テモテという信者に会いました。 母親は、クリスチャンのユダヤ人、父親はギリシヤ人ということです。 2 テモテは、ルステラとイコニオムのクリスチャンたちから好感を持たれていたので、 3 パウロは、ぜひ自分たちの伝道旅行に加わるように勧めました。ところが、テモテの父親がギリシヤ人であることはだれもが知っていたので、この地方のユダヤ人の手前、出発前に割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けさせました。 4 一行は町から町を訪問して回り、エルサレムの使徒や長老たちが外国人向けに決めた事柄を伝えました。 5 それで教会は、日を追って、信仰もしっかりし、信者の数も増え、めざましい発展を遂げたのです。

6 聖霊が、今回はトルコのアジヤ地方へは行くなと指示なされたので、一行はフルギヤとガラテヤ地方を通ることになりました。 7 それからムシヤとの境に沿って進み、北のビテナヤ地方に行こうとすると、またもや聖霊に禁じられたのです。 8 そこで、代わりにムシヤ地方を通してトロアスに行きました。

#### パウロの見た幻

9 その夜、パウロは幻を見ました。 幻の中で、海の向こうに住むマケドニヤ人が、「こちらに来て、私たちを助けてください」としきりに頼むのです。 10 事は決まりました。直ちにマケドニヤに向かうことになったのです。 神様がそこへ私たちを遣わし、すばらしい知らせを伝えようとしておられるのは、まちがいありません。

11 私たちは、トロアスから船で、サモトラケに直航し、翌日ネアポリスに着きました。

12 そしてついに、マケドニヤの国境から少し入った、ローマの植民地ピリピに到着し、数日の間そこにいました。

13 安息日に、私たちは郊外に出て、人々が祈りに来ると思われる川岸に行きました。 やがて、数人の婦人が集まったので、聖書のことばを教えました。 14 その中に、テアテラ市から来た紫布の商人ルデヤがいました。 以前から神様を礼拝していた婦人です。 このルデヤが、私たちの話に耳を傾けていた時、神様は彼女の心を開き、パウロの語ることをみな信じさせたのです。 15 彼女は一家をあげてバプテスマ（洗礼）を受け、「私を主に忠実な者とお思いくださるなら、どうぞ家にお泊まりください」と招待しました。 たったの申し出に、私たちはその招待を受けることにしました。

#### 牢獄で

16 ある日、川岸の祈り場に行く途中、私たちは悪霊に取りつかれた、若い女奴隷の占い師に出会いました。 彼女の占いのおかげで、主人たちは、甘い汁をいっぱい吸っていたのです。 17 この女が、ついて来て、「ねえねえ、この人たちは神様のお使いだよ。 あんたたちにさ、どうしたら罪が赦されるか、教えてくれるんだよ」と大声で叫び続けます。

18 こんなことが毎日続いたので、困り果てたパウロは、ある日、彼女に取りついた悪霊に、「イエス・キリストの名によって命じる。 この女から出て行けっ!」とどなりつけました。 するとたちまち、悪霊は出て行きました。

19 面白くないのは、女の主人たちです。 もう、ふところに金がころがり込むあてがな

くなったのです。その腹いせに、パウロとシラスをつかまえ、広場にいる裁判官たちの前へ引きずって行き、口々に訴えました。

2021「このユダヤ人のやつらときたひにや、町をすっかりだめにしようって魂胆なんです。ローマの法律に反することばかり教えてるんですから。」

22たちまち、二人に反感をいだく人たちで、広場には黒山の人だかりができました。そこで裁判官たちは、二人を裸にし、むちで打たせました。23何度も何度もむちが振り下ろされ、しまいには、二人の背中から、たらたらと血がしたたり落ちました。二人は、牢に放り込まれました。こいつらを逃がしでもしたら命はないものと思え、と脅された看守は、24二人を奥の牢に入れ、厳重に足かせをかけました。

25真夜中ごろ、パウロとシラスは、主に祈ったり、賛美歌をうたったりしていました。ほかの囚人たちも、じっと聞き入っています。その時です。26突然、大地震が起こったのです。牢獄は土台からぐらぐら揺れ動き、戸という戸は開き、囚人たちの鎖もはずれてしまいました。27看守が目を覚ますと、戸が全部開いています。てっきり、囚人はみな脱走したものと思い込み、もうだめだとばかり、剣を抜いて自殺しようとしていました。

28その瞬間、パウロが叫びました。「死ぬなっ！ 全員ここにいるぞっ！」

29看守はあかりを取って来させると、中に駆け込み、恐ろしさのあまりわなわな震えながら、パウロとシラスの前にひれ伏しました。30そして、二人を外に連れ出し、「先生方。救われるには、どうすればよろしいのでしょうか！」と尋ねました。

31二人は答えました。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族全員も救われますよ。」

32こうして二人は、看守とその家の者たち全員に、主のすばらしい知らせを伝えたのです。33看守は、二人の打ち傷をていねいに洗って手当てをしたあと、家族ぐるみでバプテスマ（洗礼）を受けました。

34それから、二人を自宅に案内し、食事のもてなしをし、家族そろってクリスチャンになったことを、心から喜び合いました。35翌朝、裁判官たちは警備員をよこして、「あの者たちを釈放せよ」と、通告してきました。36そこで看守はパウロに、「お二人とも自由の身です」と伝えました。

37ところがパウロは、警備員たちにこう答えたのです。「とんでもない。あの人たちは、裁判もしないで、いきなり私たちを公衆の面前でむち打ち、そのあげく投獄したんですよ。私たちは、れっきとしたローマ市民だというのに……。それを、今さらなんです。こそこそ釈放しようなんて。それですむ問題だと思っているんですか。自分からやって来て、釈放するのが筋じゃありませんか。」

38警備員たちは、パウロのことばを裁判官たちに伝えました。パウロとシラスがローマ市民だと聞いた時の、彼らの驚きようといったらありません。命が危うくなるかもしれないのです。39さっそく牢獄に駆けつけ、「どうか、ここから出てください」と平身

低頭、二人を連れ出し、町から立ち去ってほしいと頼みました。 40 パウロとシラスはルデヤの家に帰り、信者たちに会って、もう一度話をし、町をあとにしました。

一七

迫害

1 さて、一行はアムピポリスとアポロニヤの町を通り、テサロニケに出ました。 その町にはユダヤ人の会堂がありました。 2 パウロはいつものように会堂へ行き、三回の安息日とも、聖書から説教しました。 3 そして、キリストの苦しみと復活の預言を説明し、イエスこそキリストだと証明しました。 4 聞いた人の何人かは、よく理解して信じました。 信心深いギリシヤ人や、町の有力な婦人たちで信じた人も、少なくありません。

5 おさまらないのは、ユダヤ人の指導者たちです。 ねたみに駆られ、とうとう町のやくざどもをけしかけ、暴動を起こしました。 ヤソンの家を襲い、処罰するために、パウロとシラスとを町の議会に引き出そうとしました。

6 しかし、当の二人が見つかりません。 しかたなく、代わりにヤソンと数人の信者を引きずって行き、いかにも大げさに訴えました。 「ご存じでしょうか。 世界中をひっくり返してきたパウロとシラスが、今この町でも騒ぎを起こしているのを。 7 そんなぶつそうな連中を、ヤソンは、事もあろうに家にかくまったのです。 やつらはみな反逆罪を犯してます。 カイザルじゃなく、イエスという別の男が王だ、とふれ回ってるんです。」

8 9 これを聞くと、町民も裁判官たちもひどく不安になり、保釈金を取った上で、彼らを釈放しました。

10 その夜、クリスチャンたちはパウロとシラスを、急いでベレヤへ逃がしました。 ベレヤに着くと、二人はいつものように、会堂で説教です。 11 ベレヤの人たちは、テサロニケの人たちに比べて、ずっと心が広く、喜んで話を聞いてくれます。 そればかりか、二人の言うことがそのとおりかどうか、毎日、聖書を調べるほどの熱心さです。 12 その結果、大ぜいの者が信じました。 中には、名の知れたギリシヤ人の婦人も数人いましたし、男性で信じた人も、かなりの数に上りました。

13 ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、パウロがベレヤで伝道していると聞くと、わざわざベレヤまで押しかけ、騒ぎ立てたのです。 14 クリスチャンたちは、すぐにパウロを海岸へ逃がしましたが、シラスとテモテはベレヤに残りました。 15 パウロに同行した人たちは、アテネまで送り、一刻も早く来るようにという、シラスとテモテへのこ とづけを持って、ベレヤに戻りました。

16 アテネで二人を待つ間、パウロは市内を見物することにしました。 ところがどうでしょう。 町は偶像でいっぱいです。 パウロの胸には、むらむらと怒りが込み上げてきました。 17 黙ってはいられません。 会堂へ行き、ユダヤ人や敬虔な外国人たちと議論する一方、毎日広場で、そこに居合わせた人たちと論じ合いました。

アテネでの混乱

18 パウロはまた、エピクロス派やストア派の哲学者たちとも議論を戦わせました。 と

ころが、イエスのことやその復活のことに話がおよぶと、「こいつは夢を見てるんだ」とあざ笑う者と、「おおかた外国の宗教でも押しつけるつもりだろう」と言う者に分かれました。

19 彼らは、マルスの丘の広場で話してはどうかと提案しました。「どうです。その新しい宗教のことをもっとくわしくお聞かせ願えないでしょうか。 20 何やら珍しいことをおっしゃっているようで、とても興味があるのです。」 21 アテネに住む人たちは、生粋のアテネ人も、寄留している外国人もみな、新しもの好きで、いつでも何か目新しいことを論じ合っては、日を過ごしていたのです。

22 マルスの丘の広場に立ったパウロは、大ぜいの人を前にして、演説を始めました。

「アテネの皆さん。 あなたがたは宗教にたいへん関心をお持ちのようですね。 23 町を歩けば、必ず多くの祭壇が目にとまります。 ところで、その中に、『知られない神に』と刻まれたものがありましたね。 あなたがたは、この神様がどういうお方かも知らずに拝んでいるわけですが、私は今、この方のことをお話ししたいと思います。

24 この方は、世界と、その中のすべてのものをお造りになった天地の主です。 ですから、人の造った神殿には、お住みになりません。 25 また人は、この方の必要を満たすこともできません。 第一、この方には、必要なものなど何ともありません。 かえって、すべての人にいのちを与え、必要なものは何でも、十分に与えてくださるのです。 26 神様は全人類を、一人の人間アダムから造り、すべての国民を全世界に散らされました。 あらかじめ、どの国が興り、どの国が滅びるか、いつそうなるか、何もかも決め、国々の境界をもお定めになったのです。

27 これもみな、人々が神様を求め、手さぐりしてでも神様を捜し出すためでした。 事実、神様は私たちから遠く離れておられるのではありません。 28 私たちは神様の中に生き、動き、存在しているのです。 あなたがたの詩人の一人が、『私たちは、神の子孫だ』と言ったとおりです。 29 もしこのとおりなら、神様を、金や銀、あるいは石のかけらなどで人間が作った、偶像みたいなものと考えるべきではありません。 30 今までは、神様はこうした無知を、見過ごしておられました。 しかし今は、すべての人に、偶像を捨てて神様に立ち返るようにと命じておられるのです。 31 神様の任命なさった方が正しいさばきを行なう日が、決まっているからです。 神様は、その方を復活させ、そのことの動かぬ証拠とされたのです。」

32 死人の復活にまで話がおよぶと、人々は笑って相手にしなくなり、中には、「ま、くわしいことはあとでお聞きしましょう」と言う人たちもありました。 33 こうして、議論は終わりましたが、 34 数名の者がパウロの側につき、クリスチャンになりました。 市議会議員のデオヌシオや、ダマリスという婦人なども、その中に含まれていました。

一八

1 パウロは、アテネを去り、コリントへ行きました。 23 そこで、ポント生まれのアクラというユダヤ人と知り合いになりました。 この人は妻プリスキラと連れ立って、最近イタリアから来たばかりでした。 彼らは、クラウドオ帝が、ローマの全ユダヤ人の追放

令を出したため、イタリヤから追い出されたのです。 アクラも、パウロと同じ天幕作りの職人だったので、パウロはその家に同居し、いっしょに仕事を始めました。

今からは外国人に

4 パウロは安息日ごとに会堂に出かけ、ユダヤ人だけでなく、外国人をも説得しようとしていました。 5 シラスとテモテがマケドニヤから来てからは、全時間をユダヤ人の説得に費やすことになり、イエスこそキリストだと証言しました。 6 ところが、ユダヤ人たちは反抗し、侮辱を加えるばかりか、イエスのことまで、ひどくののしるではありませんか。もう我慢はできません。 パウロは、彼らときっぱり縁を切るしるしに上着のちりを払い、こう言い放ちました。 「おまえたちの血の責任は、おまえたちに降りかかれっ！ 私のせいじゃない。 これからは、外国人を教えよう。」

7 その後パウロは、テテオ・ユストという外国人の家に泊めてもらうことにしました。 この人は、外国人ながらも神を敬う人で、うまいことに、隣が会堂でした。 8 会堂管理人クリスポの一家は、ほかの大ぜいのコリント人と共に主を信じ、バプテスマ（洗礼）を受けました。

9 ある夜、主は幻の中で、パウロにおっしゃいました。 「恐れるな。 語り続けなさい。 やめてはいけない。 10 わたしがついていて、だれもあなたに危害を加えることはできない。 この町には、わたしにつく者が大ぜいいる。」 11 パウロは、一年六か月の間、この町にとどまり、神の真理を教えました。

12 しかし、ガリオがアカヤ地方の総督に就任すると、ユダヤ人は徒党を組んでパウロに反抗し、力づくで総督のところへ引っぱり行って、 13 「ローマの法律に反するやり方で、神様を礼拝しろと教える不屈き者です」と訴えました。 14 パウロが釈明するより早く、ガリオが口を切りました。 「いいか、ユダヤ人諸君。 犯罪事件なら、諸君の訴えを聞きましょう。 15 しかし、これは何だ。 ことばの解釈とか、人物批判とか、諸君のばかげたおきてに関する事ばかりではないか。 そんなことは、自分たちで始末をつけるがよかろう。 私にはどうでもいいことだし、かかわりになりたくもない。」 16 これだけ言うと、ガリオは、さっさと人々を法廷から追い出しました。

17 暴徒どもは、腹立ちまぎれに会堂の新しい管理人ソステネを捕らえ、法廷の外で打ちたたきました。 しかしガリオは、そんなことには、まるで無関心でした。

18 このあとも、パウロはコリントにとどまりましたが、しばらくすると、クリスチャンたちに別れを告げ、プリスキラとアクラを連れて、船でシリヤに向かいました。 パウロはこの時、一つの誓いを立てていたので、ケンクレヤで頭をそりました。 そうするのが、ユダヤ人の習慣だったのです。 19 一行がエペソに着くと、パウロは、二人を船に残したまま会堂へ出かけ、ユダヤ人たちと議論を戦わせました。 20 21 「もう少し、いてくださいませんか」と頼まれましたが、そんな余裕はありません。 「せっかくですが、どうしても祭りまでにエルサレムへ行かなければならないので、ちょっと……」と断わるほかありませんでした。 機会さえあれば、また必ず来ると約束して、一行は船旅を続け

ました。

22 やがて、船はカイザリヤに着き、上陸したパウロは、まずエルサレムの教会を訪問し、皆にあいさつしてから、アンテオケに向かいました。 23 アンテオケにはしばらくいました。 そのあとまた、トルコへ行き、ガラテヤとフルギヤ地方のクリスチャンを訪問しては、励ましのことばをかけ、信仰の成長に役立つ話をして回りました。

24 そのころたまたま、すばらしい聖書教師で、説教者としても有能なアポロというユダヤ人が、エジプトのアレキサンドリヤからエペソに来ました。 25 26 アポロは、エジプトにいたころ、バプテスマのヨハネのことと、ヨハネがイエスについて語ったことを聞いた以外、何も知りませんでした。 それでも大胆に、また熱心に「メシヤ（救い主）様がもうすぐ来られます。 お迎えの準備を下さい」と会堂で説教しました。 プリスキラとアクラも、その力強い説教を聞きました。 二人はあとでアポロに面会を求め、ヨハネの預言以後、イエスの身に起こったことと、その意味を正確に説明してやりました。

27 アポロの希望はギリシヤへ行くことでした。 それには、クリスチャンたちも賛成です。 大いに励まし、ギリシヤのクリスチャンに手紙で、アポロのことをよろしくと伝えました。 ギリシヤに行ったアポロは、神のためにいかに有能ぶりを発揮し、教会を励ましました。 28 また公の場では、ユダヤ人たちをみごとにやり込め、聖書のことばを引用して、イエスこそキリストだと証明しました。

一九

イエスの名によるバプテスマ

1 アポロがコリントにいる間に、パウロはトルコを通してエペソに来ました。 そこで会った何人かの弟子たちに、パウロは尋ねました。 2 「ところで、信じた時、聖霊様を受けましたか。」

「いったい何のことでしょう。 聖霊なんて聞いたこともありません。」

3 「それじゃあ、バプテスマ（洗礼）を受けた時、どんな信仰告白をしたんです？」

「バプテスマのヨハネの教えた……。」

4 これを聞いたパウロは、ヨハネのバプテスマは、罪を離れて神に立ち返る決意を表わすものだから、それを受けた者が、ヨハネの証言どおり、あとから来られたイエスを信じるのは、当然のことだと説明しました。

5 彼らはすぐ、主イエスの名によってバプテスマを受けました。 6 そして、パウロが彼らの頭に手を置くと、聖霊が下りました。 すると彼らは、外国語で話したり、預言したりし始めたのです。 7 みなで十二名ほどの人でした。

8 このあと、パウロは会堂で、三か月の間、安息日ごとに大胆に説教し、神の国のことを教えました。 9 中には、パウロの話を非難し、人々の面前で、キリストに逆らうことばを吐く連中もいました。 そんな連中は、もう二度と相手にしないことに決め、会堂での説教はそれっきりになりました。 代わりに、クリスチャンたちを誘って、ツラノの講堂で別の集会を開き、毎日そこで説教しました。 10 これが二年間も続いたので、トルコ

のアジヤ地方に住む人たちは、ユダヤ人だろうが外国人だろうが、主の教えを聞かない人は、ほとんどいないほどでした。 11 しかもパウロは、すばらしい奇蹟を行なう力にも恵まれたので、 12 彼の手ぬぐいや、前かけを病人にかけるだけで、病気は治り、悪霊は出て行きました。

13 ところで、町から町へと渡り歩く、ユダヤ人の魔よけ祈祷師の一行がありました。そこで、試しに主イエスの名を使ってみようという話が持ち上がり、「パウロが伝えているイエスによって命令する。 出て行けっ！」と、まじないを唱えることにしました。 14 こんなことをしたのは、実は、ユダヤの祭司長スケワの七人の息子たちでした。 15 ところが、悪霊に取りつかれた人に実際に試してみると、結果はさんざんでした。悪霊は、平然と「イエスなら知ってる。パウロだって知ってる。だが、おまえらは何者だ」と言い返してきたのです。 16 そればかりか、悪霊に取りつかれた男が、一行のうちの二人に飛びかかり、めったやたらになぐりつけたので、裸にはされるし、重傷は負うしで、命からがら、やっとその家から逃げ出しました。

17 この出来事は、あっという間に、エペソ中のユダヤ人やギリシヤ人に伝わり、町中が大きな恐れに包まれると同時に、主イエスの御名がほめたたえられました。 18 19 それまで魔術を行なっていた信者たちも、そのことを告白し、呪文の本やお札を持ってきて山と積み上げ、みんなの见ている前で焼き捨てました。ざっと見積っても、銀貨五万枚にはなりそうな量でした。 20 このこと一つ取ってみても、この地方一帯が、どれだけ神のことばによって揺り動かされたか、よくわかります。

#### エペソでの騒動

21 事件が一段落すると、パウロは聖霊の導きで、ギリシヤを回ってから、エルサレムに帰ることにしました。あとでローマへも行くつもりでした。それをはっきりさせると、 22 まず、助手のデモテとエラストとをギリシヤへやり、自分は、なおしばらくトルコにとどまりました。

23 ちょうどそのころ、エペソで、クリスチャンのことで大騒動が持ち上がりました。 24 事を起こしたのは、デメテリオという銀細工人です。この男は職人を大ぜい雇い、ギリシヤの女神アルテミスの神殿の模型作りを手広くやっていました。 25 この男が、自分のところの職人や同業者を集めて、たいそうな演説をぶったのです。

「皆さん。私たちは神殿の模型作りで食べています。 26 ところがですよ、ご存じのように、あのパウロとかいうやつが、手で作ったものは神じゃないなどと、不屈きなことをぬかし、大ぜいの人にふれ回っているのです。おかげで、こちらの売り上げは、がた落ちです。エペソばかりか、この地方全体がそうなんです。 27 もちろん、商売が圧迫されるとか、もうけが減るとかいったことだけを、とやかく言うつもりはありません。私が声を大にして叫びたいことは、このままでは、偉大な女神アルテミス様の神殿のご威光が薄れ、トルコのこの地方は言うにおよばず、世界中の人たちが礼拝してきた、すばらしい女神アルテミス様が忘れられてしまうということです。」

28この演説で、人々は逆上し、大声で「偉大なのはエペソ人の女神アルテミス様だっ！」とわめき始めました。

29たちまち町中は大混乱です。人々はパウロに同行したガイオとアリスタルコとを裁判にかけようと、二人をむりやり引っ立て、円形劇場へなだれ込みました。30これを見て中に入ろうとするパウロを、弟子たちが必死に押しとどめました。31パウロの友人であるこの地方のローマの役人たちも、使いの者をよこし、危険だから、くれぐれも中へは入らないように、と言ってきました。

32一方、劇場の中では、各人がてんでんばらばらのことをわめき立てるので、ほとんどの人が、なぜ集まっているのかさえ、わからない有様でした。

33そうこうするうちに、ユダヤ人たちが、群衆の中からアレキサンデルという男を前に押しやりました。演説させようというのです。アレキサンデルは、進み出て、静かにするよう身ぶりで合図しました。34しかし、彼がユダヤ人だとわかると、群衆は、前よりも激しく騒ぎだし、手のつけようがありません。「エペソ人の偉大な女神アルテミス様、ばんざーいっ！ばんざーいっ！」と二時間も叫び続けました。

35とうとう市長が乗り出し、やっとのことで、なんとか話ができるまでに騒ぎを静めました。「市民の皆さん。エペソが偉大なアルテミス様の宗教の本山であることは、だれもが知っています。アルテミス様のご神体は、天から、われわれのもとに下って来たのです。36それは、はっきりしているのだから、何を言われても、あわてることはありません。くれぐれも軽はずみなことだけは、しないようにしてください。37さて、ここへ連れて来た二人のことですが、女神の神殿から何かを盗み出したり、女神を冒瀆したりしたわけではありません。38もしデメテリオや職人たちが、二人を訴えたいのなら、法廷があるのだから、裁判官の前に持ち出せばいいのです。何事も法律にのっとって進めてもらいたいですね。39また、それ以外のことで不平があれば、定例の市議会に提出すればすむことです。40とにかく、今日のこの騒動は、ローマ政府から騒擾罪に問われるかもしれません。なにしろ、正当な理由が一つもないのだから、どうなっても、責任は負えませんよ。」

41こうして、市長は人々を解散させました。

・

## 二〇

1騒ぎが収まると、パウロは、使いをやって弟子たちを集め、別れの説教をしてから、ギリシヤへ出発しました。2その旅の途中でも、立ち寄るすべての町で説教し、クリスチャンを力づけることは忘れませんでした。やがてギリシヤに着きました。3そこに三か月の間とどまったあと、船でシリヤへ向かおうと準備を進めていたところ、ユダヤ人たちがパウロの命をねらっているという情報が入ったのです。急いで予定を変え、北のマケドニヤを通して帰ることにしました。

4数人の人が、トルコまで同行することになっていました。プロの息子でベレヤ出身の



ソパテロ、テサロニケから来たアリストアルコとセクンド、デルベのガイオ、それにテモテです。 またテキコとトロピモは、トルコの故郷の町に帰るところでした。 5 彼らはひと足先に出かけ、トロアスで私たちを待っていました。 6 過越の祭りが終わるとすぐ、私たちはマケドニアのピリピから船出し、五日後にはトルコのトロアスに着いて、一週間そこで過ごしました。

三階から落ちた青年

7 日曜日になりました。 私たちは聖餐式（キリスト教の儀式の一つ）のために集まり、パウロが説教しました。 翌日には出発することになっていたの、話は夜中まで続きました。 8 会場の三階の部屋には、たくさんのランプが、あかあかと点されていました。 9 ところが、話がえんえんと続くので、窓ぎわに腰かけていたユテコという青年は、ぐっすり眠り込み、三階からまっさかさまに落ちてしまいました。 人々が抱き起こした時は、もう死んでいました。 10 - 12 パウロは降りて来て、彼を抱きかかえ、「心配するな。大丈夫だ」と言いました。 すると、驚いたことに、そのことばどおりに、青年は生き返ったのです。 人々の喜びはたいへんなものでした。 一同は、もう一度三階に上がり、聖餐式をしました。 パウロは、そのあとも長いこと説教し、夜明けごろ、ようやく出発しました。

13 パウロは陸路アソスに向かうつもりだったので、私たちは船で先に出発しました。 14 そして、アソスで落ち合い、いっしょに船でミテレネまで行き、 15 翌日にはキヨスの沖を過ぎ、次の日サモスに寄港しました。 その翌日には、もうミレトです。

別れのあいさつ

16 パウロは、できれば五旬節の祭りまでにはエルサレムへ行こうと、先を急いでいたので、エペソには立ち寄らないつもりでした。 17 それで、ミレトに上陸すると、さっそくエペソ教会の長老たちに、船まで会いに来るようにとことづけました。

18 集まった長老たちに、パウロはこう語りました。

「私がトルコに足を踏み入れて以来、どんなふう生きてきたかは、よくご存じですね。

19 私は謙そんの限りを尽くし、涙を流しながら、神様のために働いてきました。 ユダヤ人には命をつけねられ、危険な目に会ったのも、一度や二度じゃありません。 20 それでも、ためらわず真理を語りました。 個人的にばかりでなく、堂々と大ぜいの人の前でも。 21 また、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、罪から離れ、主イエス・キリストを信じて神様に立ち返るように勧めました。

22 今は、聖霊様が、どうにも逆らえない強い力で、私をエルサレムへ行かせるのです。 そこで何が待ち受けているか、見当もつきません。 23 ただわかっているのは、行く先々の町で、入獄と苦難が待っていると、聖霊様が告げてくださったことだけです。 24 しかし、主イエス様がせよと言われた仕事をやり遂げるためなら、こんなつまらない命でも、喜んで投げ出す覚悟はできています。 その仕事とは、神様の力強い愛とあわれみについての、すばらしい知らせを伝えることです。

25 皆さん。これまで何回か、あなたがたのところを訪問し、神の国のことを教えた私ですが、もう二度とお目にかかることもないでしょう。26 ですから、今ここで、はっきり宣言します。あなたがたが、どんなさばきを受けることになろうと、私の責任ではありません。27 私は、神様の教えを、何もかも話してあげたからです。

28 注意なさい。あなたがたは、神の羊たち〔神様がキリストのいのちと引き替えに買い取った教会〕を養い育てる立場にあるのです。このことをしっかり肝に銘じておきなさい。いいですか、聖霊様が、この監督者としての責任をお与えになったのですよ。

29 私が去ったあと、狂暴な狼のような偽教師たちが忍び込み、情け容赦なく群れを荒らし回るでしょう。30 それだけじゃありません。あなたがたの中からも、弟子を自分の側に引き込みたいばかりに真理を曲げる者が出るでしょう。31 だから、よく見張っていなさい。私といっしょに過ごした三年間を忘れてはいけません。昼も夜も目を離さず、あなたがたのために流してきた、私の涙を忘れてはいけません。

32 私は今、あなたがたを、神様とそのすばらしいみことばとにゆだねます。このことばが、あなたがたの信仰を強くし、神様のためにきよい者とされた人々が相続する財産を、あなたがたにも与えるのです。

33 私はお金やぜいたくな衣服をほしいと思ったことなど、ただの一度もありません。34 この手、この両手が、どれだけ自分の生活や、いっしょにいた人たちの必要のために働いたかは、よくご存じでしょう。35 また、貧しい人たちを助けることでも、常に良い手本となったつもりです。それは『与えることは受けることよりも幸いである』という、主イエス様のことばが、いつも頭にあったからです。」

36 語り終えると、パウロはひざまずき、長老たちのために祈りました。37 人々は別れを惜しんで、一人一人パウロを抱きしめ、おいおい声をあげて泣きました。38 もう二度と会えないだろうと言ったパウロのことばに、胸も張り裂ける思いだったのです。それから一同は、パウロを船まで見送りました。

二一

#### エルサレムへの最後の旅

1 エペソの長老たちと別れたあと、私たちはコスに直航し、翌日はロドス、それからパトラへと船旅を続けました。2 そこで、シリアのフェニキヤ方面に行く船に乗り替え、3 キプロス島の南を通ってシリアに向かい、一たんツロに上陸しました。ここで船の積み荷を陸上げすることになっていたからです。4 上陸すると、クリスチャンを捜し出し、一週間ほどいっしょに過ごしました。この町のクリスチャンは聖霊のお告げを受け、どうにかしてパウロにエルサレム行きを思いとどまらせようとしました。5 しかし、停泊期間も終わり、私たちは予定どおり船に戻ることになったので、人々は家族総出で、浜辺まで見送りに来ました。互いに祈り合い、別れのあいさつがすむと、6 私たちは船に乗り込み、人々は家へ帰りました。

7 ツロの次はトレマイです。この町のクリスチャンにもあいさつをしましたが、いたの

は、一日だけでした。 8翌日には、もうカイザリヤに着き、そこでは、最初の七人の執事の一人であった、伝道者ピリポの家に泊まりました。 9ピリポには、預言する力のある未婚の娘が四人いました。

10 11数日そこに世話になっているあいだに、やはり預言する力のあるアガボという人の訪問を受けました。 この人は、わざわざユダヤから来たのです。 アガボはパウロの帯を取り、それで自分の手足を縛ってから、言いました。「聖霊様のお告げです。『この帯の持ち主は、エルサレムでユダヤ人からこのように縛り上げられ、ローマ人に引き渡される。』」 12これを聞いた者はみな、この町のクリスチャンも、同行していた私たちも、声をそろえて、エルサレムへは行かないでほしいと、涙ながらに訴えました。

13しかしパウロは、断固として決心を変えません。「なぜ泣くのか。 私の心をくじくのはやめてくれ。 主イエス様のためなら、エルサレムで投獄されてもかまわないのだ。 いや、殺されてもいい、とまで覚悟しているのだ。」 14もうこれ以上何を言ってもむだです。「主のお心のままになりますように」と言って、口をつぐむほかありません。

15しばらくして、私たちは荷物をまとめエルサレムへ出発しました。 16カイザリヤのクリスチャンも幾人か同行し、エルサレムに着くとすぐ、最古参のクリスチャンの一人、キプロス島出身のマナソンの家へ案内してくれました。 そこに泊めてもらうことになっていたからです。 17エルサレムのクリスチャンはみな、私たちを心から歓迎してくれました。

18翌日、パウロは私たちを連れ、ヤコブをはじめエルサレム教会の長老たちに会いに出かけました。 19ひと通りあいさつがすむと、パウロは、この伝道旅行で、神がどれだけ多くのことを成し遂げてくださったかを、くわしく報告しました。

20それを聞いた人々は心から神をほめたたえ、パウロに言いました。「愛する兄弟よ。 ご存じとは思いますが、何千というユダヤ人もまた、主イエス様を信じるようになったのです。 彼らはクリスチャンになっても、ユダヤ人はユダヤの伝統と習慣を守り続けるべきだと強く主張しています。 21そこで困ったことがあるんですよ。 あなたがモーセの法律やユダヤ人の習慣に反し、子供に割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を施すことを禁じているといううわさが、エルサレムに流れているのです。 22どうしたものでしょうね。 あなたが来たことは、必ず彼らの耳にも入るでしょうし……。

23それですっては何なのですが、こうしたらどうでしょう。 ある誓願を立てて頭をそる人が四人います。 24この人たちを神殿に連れて行き、あなたもいっしょに頭をそり、彼らの費用を払ってやるのです。 そうすれば、うわさが事実無根であり、あなたはユダヤ人として、おきてもちょうんと守り、私たちと同じ考えであることが、よくわかってもらえるでしょう。

25もちろん、外国人のクリスチャンには、このようなユダヤの習慣を押しつけるつもりは毛頭ありません。 ただ、前に手紙で知らせたように、偶像にささげた物を食べないこ

と、血を食べないこと、しめ殺された動物の肉は、血を抜かないままで食べないこと、不品行を避けること、これだけを守ってもらえばいいのです。」

26 パウロはこの提案を受け入れ、翌日、四人の人といっしょに儀式を受けるために宮へ行き、ほかの人たちともども、七日後に供え物をささげる誓いを立てたことを公表しました。

27 その七日目がようやく終わるという時、トルコから来た数人のユダヤ人が、宮の中でパウロを見つけたのです。連中は群衆をそそのかしてどつと襲いかかり、28 パウロを押さえつけると大声で叫びました。「おい、みんな、手を貸してくれ一つ！ こいつは、とんでもないやつなんだ。ユダヤ人に逆らえだの、おきてを守るな、だのとふれ回ってるんだ。そればかりじゃないぞ。神殿の規則に反することも教えている。現に、外国人をこの神聖な場所に連れ込むようなまねを平気でやってるんだからな。」29 [連中は、その日の早朝、パウロが、エペソから来た外国人のトロピモといっしょにいるのを見かけたので、パウロが彼を神殿に連れ込んだものと勘違いしたのです。]

30 効果てきめん。この訴えに、町中の人が興奮して騒ぎだしました。人々はパウロ目がけて殺到し、むりやり宮の外へ引きずり出すと、ぴったり門をしめてしまいました。

31 彼らがパウロを殺そうとしていた時、ローマの守備隊司令官のもとに、エルサレムが混乱状態に陥ったという知らせが届きました。32 司令官は、直ちに兵士と士官を率いて現場に駆けつけました。軍隊が近づいて来たので、人々はパウロをなぐるのをやめました。33 司令官はパウロをとらえると、まず二重の鎖で縛らせ、次に、この男は何者で、いったい何をしでかしたのかと、人々に尋ねました。34 ところが、人々がめいめい勝手なことを叫び続けたので、さっぱり事情がつかめません。ひとまず、パウロを兵営へ連行しろと命じました。35 しかし、階段にさしかかった時には、群衆がますますひどく騒ぎ立てたので、パウロをかつぎ上げなければならなくなりました。36 「そいつを殺せっ！ 殺しちまえっ！」とわめきながら、押し寄せて来ました。

37 38 兵営に連れ込まれようという時、パウロは司令官に、「お話ししたいことがあるのですが」と言いました。そのことばに司令官は驚いて、聞き返しました。「おまえ、ギリシヤ語が話せるのか。じゃあおまえは、数年前、反乱を起こし、四千人の殺し屋を引き連れて荒野へ逃亡した、あのエジプト人じゃないのか。」

39 「とんでもありません。私はキリキヤのタルソ出身のユダヤ人です。お願いします。どうかこの人たちに話をさせてください。」

パウロの釈明

40 司令官が許可したので、パウロは階段の上に立ち、身ぶりで人々を静めました。まもなくすっかり静かになったところで、パウロはヘブル語で話し始めました。

二二

1 「私の兄弟とも父とも言うべき皆さん。どうか、私の申し上げることを聞いてください。」2 [パウロがヘブル語で話すのを聞いて、人々はしーんと静まり返りました。] 3

「私はキリキヤの町タルソで生まれたユダヤ人ですが、エルサレムのガマリエル先生のもとで教育を受けました。先生の門下生として、ユダヤのおきてと習慣には、特にきびしく従うように教えられました。つまり、今の皆さん同様、こと神様に関する限り、人並み以上に熱心だったのです。4 クリスチャンを迫害し、逃げる者たちを、どこまでも執念深く追い回し、男でも女でも手当たりしだいに縛り上げて投獄したり、殺したり……。

5 そのことは、大祭司様も、議会の議員の方々も証言してくださるでしょう。この人たちに頼んで、ダマスコに住むユダヤ人の指導者あてに、クリスチャンを見つけしだい縛り上げ、処罰するためにエルサレムへ連行することを認めさせる手紙を、書いてもらったのですから。

6 ところが、もうじきダマスコという時、そう、あれはちょうど正午ごろでしたが、突然まばゆい光が、天からさっと私を照らしたのです。7 思わず倒れ伏した私の耳に、『パウロ、パウロ。なぜわたしを迫害するのか』と呼びかける声が聞こえました。

8 『そう言われるあなた様は？』と尋ねると、その声は『あなたが迫害しているナザレのイエスだ』と答えるではありませんか。9 いっしょにいた人たちには、光は見えましたが、ことばはわかりません。

10 『主よ。私はいったい、どうしたらよいのでしょうか。』私がこう尋ねると、主は、『立って、ダマスコの町に入りなさい。将来どんなことがあなたの身に起こるかは、そこで教えられるだろう』というお答えです。

11 ところが、あまりのまぶしさに、目が見えなくなり、連れの者にダマスコまで手を引いて行ってもらわなければなりません。12 ダマスコには、神様のおきてを忠実に守る、信心深いアナニヤという人がいました。ダマスコのすべてのユダヤ人に、たいそう評判のよい人でした。13 この人が来て、『兄弟パウロ。見えるようになれ』と言うと、たちまち彼の姿が見えるようになりました。

14 するとアナニヤは、こう言ったのです。『ご先祖の神様があなたをお選びになったのです。神様がそのことをあなたに知らせ、メシヤ（救い主）に会わせ、その御声を聞かせてくださったのです。15 あなたがこの方の教えを携えて行き、自分で見聞きしたことを、あらゆる所のあらゆる人たちに伝えるためです。16 さあ、何をためらっているのです。お立ちなさい。主の名を呼んでバプテスマ（洗礼）を受け、罪をすっかり洗いきよめていただくのですよ。』

17 18 こうしてエルサレムに帰り、ある日、神殿で祈っていると、うつらうつら夢ごちになり、神様の幻を見たのです。神様は、『さあ、急いでエルサレムを離れなさい。ここの人たちは、あなたがわたしの教えを伝えても信じないから』とおっしゃいました。

19 私は答えました。『主よ。人々はかつて私がどこの会堂でも、あなた様を信じる人たちを投獄し、むち打ったことを、いやと言うほど知っているのです。20 しかも私は、あのステパノが殺された時には、それに賛成して現場に立ち合ったばかりか、石を投げつける連中の上着の番をしたのですよ。』

2 1 しかし神様はやっぱり、『さあ出発しなさい。あなたを遠く、外国人のところへ派遣します』と言われるのです。」

2 2 ここまで話すと、人々はいっせいに叫びだしました。「こんなやつは消しちまえっ！生かしておくな。殺せ、殺せーっ！」 2 3 あたりは興奮のるつぼです。大声でわめく声、声、声……。上着は宙に舞い、あちこちで、ちりをつかんでまき散らす者も出るしまつです。

2 4 どうしてこれほどの怒りを買うのでしょうか。その事情を知りたいと思った司令官は、パウロを兵営に引き入れ、むちで打って白状させようと思いました。

2 5 兵士たちが縛り上げた時、パウロはそばに立っている士官に、「ローマ市民の私を、裁判にもかけずにむち打つのは、法律違反じゃないですか」と言いました。

2 6 これを聞いて、士官はあわてて司令官のところへ駆けつけ、「いかがいたしましょう。あの男はローマ市民だと言っております」と耳打ちしました。

2 7 そこで司令官がじきじきに、問いました。

「はっきりしろ。おまえはローマ市民なのか。」

「おおせのとおり、確かにローマ市民です。」

2 8 「わしもローマの市民権を持っているが、ずいぶん金を積んだものだ。」

「私は生まれながらの市民です。」

2 9 パウロを打とうと、そこに立っていた兵士たちは、ローマ市民だとわかったとたん、びっくりして手を引きました。司令官も、知らなかったとはいえ、ローマ市民を縛ってむち打つように命令したので、ひどく不安になりました。

最高議会で

3 0 翌日、司令官はパウロの鎖を解き、祭司長たちに、ユダヤの最高議会の召集を命じました。その場にパウロを連れ出し、騒ぎの原因を突きとめようと思ったのです。

二三

1 パウロは議会の面々をじっと見つめ、口を開きました。「皆さん。私はいつでも神様の前で、少しも良心に恥じない生活を送ってまいりました。」

2 これを聞いただけで、大祭司のアナニヤは、パウロのそばに立っている者たちに、「やつの口を打て」と命じました。

3 パウロは、きっとアナニヤを見すえてやり返しました。「神様に罰せられるのは、おまえのほうだ。うわべだけは取りつくろっても、自分でおきてを破っている。私を打てだと、なんという裁判官か。」

4 「それが大祭司様に対することばかっ！」そばにいた者たちが叫びました。

5 「あの人が大祭司様ですって？ それは知りませんでした。聖書には、確かに『指導者の悪口を言ってはならない』と書いてありますな。」

6 そのうちパウロは、議会にはサドカイ人（神殿を牛耳っていた祭司階級。ユダヤ教の主流派）もいれば、パリサイ人（信徒で、特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）

もいることに気づき、こう叫びました。「皆さん。私は先祖代々のパリサイ人です。私が今ここでさばかれているのは、死人の復活を信じているからなのです。」

7 このことばで、議会はパリサイ派とサドカイ派に真っ二つに分かれてしまいました。8 サドカイ派は、復活も御使いも信ぜず、永遠に生きる霊もないと主張する一方、パリサイ派は、それらを全部信じていたからです。

9 議会は大混乱に陥りました。ユダヤ人の指導者の中にも、パウロは正しいと論じる人が現われるしまつです。彼らは大声でこう言いました。「この人は別に悪いことなんかしちゃいないぞ。たぶんダマスコへ行く途中で、何かの霊か御使いが語りかけたんだろう。」

10 叫び声はますます大きくなり、人々はパウロを両方から奪い合おうとします。今にもパウロが引き裂かれそうな勢いです。心配になった司令官は、兵士たちに、力づくでパウロを人々から引き離させ、兵営に連れ帰りました。

11 その夜、主がパウロのそばに立って、こう言われました。「パウロよ。心配はいらない。あなたは、このエルサレムでと同じように、ローマでもわたしのことを人々に証言するのだ。」

12 13 翌朝、四十名以上のユダヤ人が集まり、パウロを殺すまでは飲み食いをしてないと誓い合いました。14 彼らは、祭司長と長老たちのところへ行ってその決意を告げ、15 「もう少しパウロを尋問したいとか何とか言って、やつをもう一度議会に立たせるよう、司令官に頼んでいただけないでしょうか。あとは、私たちが途中で待ち伏せて、うまいこと始末します」と願い出ました。

16 ところが、この陰謀を、パウロの甥が知ったのです。彼は急いで兵営に駆け込み、このことをパウロに知らせました。

17 パウロは士官の一人を呼び、「この青年を、司令官に会わせてやってください。重大な報告があるそうですから」と頼みました。

18 士官はすぐに、青年を連れて司令官のところへ行き、「囚人のパウロが、この青年をお引き合わせするようにと申しております。何か報告があるそうで……」と伝えました。

19 司令官は青年の手を取り、だれもいないところへ連れて行って、「いったいどんな用件か」と尋ねました。

20 「ユダヤ人たちが、もう少し取り調べたいことがあるようなふりをして、明日パウロをもう一度議会に呼び出すことを願い出ます。21 しかし、どうか許可なさいませんように。四十名以上の者が、パウロを襲い、殺そうと待ち伏せているからです。連中は、パウロを殺すまでは飲み食いしないと誓い合っています。今、連中は外で、あなたの許可が下りるのを待っているのです。」

22 司令官は青年に、「このことはだれにも口外するな」と言い含めて帰しました。2

3 24 それからすぐ、士官を二人呼び、「今夜九時、カイザリヤに向けて出発できるよう準備しろ。兵士は二百名だ。それと槍兵二百名、騎兵七十名も同行させろ。パウロを

馬に乗せ、総督ペリクス閣下のもとへ無事に送り届けるのだ」と命じました。

25 このとき司令官が総督に送った手紙は、次のようなものでした。

26 「クラウド・ルシヤから、総督ペリクス閣下に、ごあいさつを申し上げます。

27 この者は、ユダヤ人に捕らえられ、危うく殺害されるところを、本官が兵を率いて駆けつけ、救出した者でございます。それというのも、れっきとしたローマ市民であったからです。28 その後、議会で、事の真相を調べましたところ、29 問題はユダヤ人の信仰上のことであり、この者を投獄したり、死刑にしたりするような事件ではないことが判明いたしました。30 しかし、この者のいのちをねらう陰謀が巡らされているとの情報をつかみましたので、彼の身柄を閣下のもとに送ることにいたします。また、この者を訴えたければ、以後は、閣下の前に訴えるようにと、その旨指示しておきました。」

31 その夜のうちに、兵士たちは命令どおりパウロをアンテパトリスまで護送し、32 翌朝、そこからカイザリヤまでは騎兵隊に任せて、兵営に引き返しました。

33 カイザリヤに着くと、騎兵隊は、司令官からの手紙といっしょにパウロを総督に引き渡しました。34 手紙を読み終えた総督が、出身地を尋ねたので、パウロはギリキヤだと答えました。

35 総督は、「おまえを訴える者たちが来てから、くわしく取り調べよう」と申し渡し、ヘロデの官邸内の牢獄に、パウロを入れておくよう命じました。

## 二四

ローマ総督の前で

1 五日後、大祭司アナニヤが、ユダヤ人の指導者数人と弁護士テルトロとを連れて来て、訴えを起こしました。2 総督の前に呼び出されたテルトロは、でたらめの告訴理由を並べ立てました。

「閣下。われわれユダヤ人がおだやかで平和な生活を送れますのも、みな、あなた様のおかげでございます。また、われわれに対する差別待遇の問題も驚くほど改善され、3 一同、心から感謝いたしております。4 さて、あまりくどくならぬよう、手短に、この男に対する訴えの筋を申し上げますので、何とぞ、お聞き届けください。5 このパウロは全く人騒がせな男で、ナザレ人という一派の首領におさまり、世界中を駆け巡ってユダヤ人をたきつけ、ローマ政府に反乱を起こそうとしているのでございます。6 その上、神殿までも汚そうとしたので、引っ捕らえたしだいでございます。

われわれとしては、当然の罰を加えようとしたただけですのに、7 守備隊司令官のルシヤ様が、この男を力づくで奪い、8 ローマの法律で裁判しろとお命じになったのです。閣下がお調べくだされば、われわれの正しいことがおわかりいただけると存じます。」

9 ほかのユダヤ人たちも、口をそろえて、テルトロの言うとおりで、とくり返しました。

10 次に総督は、身ぶりでパウロをうながしました。パウロは立ち上がり、釈明を始めました。

「閣下が長年にわたり、ユダヤ人の問題をさばいてこられたことは、よく存じ上げており



ます。ですから、安心して釈明させていただきます。 11 お調べくださればすぐにわかることですが、私が神殿で礼拝するためにエルサレムに着いてから、十二日しかたっておりません。 12 私はどこの会堂でも町でも、騒ぎを起こせと人々をそそのかしたことなく、一度もございません。 13 この人たちは、何一つ証拠をあげられないはずです。 14 しかし、この人たちが異端ときめつけている救いの道を信じていることだけは、確かでございます。 私はこの道を伝えることで、私たちの先祖の神様に仕えているのです。またユダヤ人のおきてと、預言者の書にあることもみな堅く信じております。 15 この人たち同様、正しい者も不信心な者も共に復活すると信じております。 16 神様の前でも人の前でも、いつも良心に恥じない生活を精一杯心がけているのでございます。 17 私は何年ぶりかで、ユダヤ人への援助金を携え、神様に供え物をささげようと、エルサレムに帰ってまいりました。 18 私を訴える人たちは、私が神殿で感謝のささげ物をしているのを見たのです。 私は規則どおり頭を丸めておりましたし、別に、回りに人だかりがあったわけでも、騒ぎがあったわけでもありません。 ただ、トルコから来たユダヤ人が数人いただけです。 19 私を訴えるのなら、まず、それを見た人たちがここに来るべきです。 20 また、この人たちには、議会で、私に不正な点を見いだせたかどうか尋ねてみてください。 21 私は議会では、ただひと言、『死人が復活するという信仰のことで釈明するため、議会に呼び出されたのです』と叫んだだけでございます。」 22 ペリクスは、クリスチャンが暴動をあおり立てたりはしないことを知っていたので、ユダヤ人には、守備隊の司令官ルシヤが来てから片をつけると言って、裁判を延期しました。 23 一方、パウロのほうは、また監禁するよう命じましたが、看守には、丁重に取り扱い、友人たちの面会や差し入れも自由にさせろと言い含めました。 24 数日後、ペリクスは、ユダヤ人の妻ドルシラを伴って来ました。 パウロを呼び出し、二人でキリスト・イエスに対する信仰について話を聞こうというのです。 25 しかし、話が正義と節制、それに、やがて来る審判のことだったので、こわくなり、「もう帰ってよい。 また折りを見て話を聞こう」と体よく断りました。 26 それから時々、パウロを呼び出しては話し合いましたが、それというのも、パウロから金をもらいたい下心があったからです。 27 こんなふうにして二年が過ぎ、ペリクスはポルキオ・フェストと交替しました。 ペリクスはユダヤ人のきげんを損ねたくなかったので、パウロを捕らえたままにしておいたのです。

## 二五

1 新総督としてカイザリヤに着いて三日後に、フェストは、エルサレムへ来ました。 2 祭司長やユダヤ人の指導者たちはさっそく面会を求め、パウロの一件を持ち出しました。 3 願うことはただ一つ、パウロを直ちにエルサレムに連れ戻してほしいということです。 [彼らはまだ、途中で待ち伏せて殺そうと思っていたのです。] 4 そんなことは知らないフェストは、パウロはカイザリヤに拘留中だし、自分もすぐ戻るので、 5 パウロを告発したければ、それ相応の人が自分と同行し、向こうで裁判にかけてはどうか、と提案しま

した。

## 裁判

6 八日か十日の後、フェストはカイザリヤに帰り、翌日、パウロの裁判が開かれました。

7 パウロが出廷したとたん、エルサレムから来たユダヤ人たちが取り囲み、次々に重い罪名をあげて訴えたものの、それを証拠立てることはできませんでした。 8 この訴えに対して、パウロは、「私は潔白です。別にユダヤ人のおきてに反対したわけでもなく、神殿を汚したことも、ローマ政府にそむいたこともございません」ときっぱり否定しました。

9 そこでフェストは、ユダヤ人の歓心を買おうとして尋ねました。「どうだ、エルサレムで裁判を受ける気はないか。もちろん、私の前でだが。」

10 11 「それよりも、ローマ皇帝に上訴する権利を要求いたします。私が無実であることは、あなた様もご存じのはずです。もし、何か死刑にあたるようなことをしているのなら、逃げも隠れもいたしません。しかし、私は潔白でございます。だれにも、私をこの人たちの手に渡して殺させる権利はありません。私はカイザル（ローマ皇帝）に上訴いたします。」

12 フェストは事態をどう始末したものかと、顧問たちに相談してから、「いいだろう、おまえはカイザルに上訴したのだから、カイザルのところへ行け」と言いました。

13 数日後、新総督に敬意を表するため、アグリッパ王がベルニケといっしょに、フェストを訪問しました。 14 二人が何日間か滞在している間に、フェストは、パウロの一件を王に持ち出しました。「実は、ペリクスから引き継いだ囚人が一人いるのですが、 15 どうも、祭司長やユダヤ人の指導者たちは、彼を死刑にしたいらしいのです。私がエルサレムへ行った時、そう申ししていました。 16 もちろん私は、ローマの法律では、裁判もせずに人を有罪にはできないと答えましたがね。それで、この男に、訴える者たちの面前で釈明する機会を、与えることになったのです。」

17 告発者たちがこちらに出向いた翌日、私は裁判を開き、パウロを出廷させました。 18 ところが、訴えというのが全く予想外でして、 19 ユダヤの宗教上の問題なのです。なんでも死んでしまったイエスとかいう人物のことで、パウロはその人が生きていますと主張しているのです。 20 こんな事件は、とても手に負えそうもありません。そこで、エルサレムで裁判を受ける気はないかと尋ねてみたら、 21 なんとまあ、カイザルに上訴すると言いだしましてね。しかたありません。皇帝陛下のもとへ送る手はずが整うまで、牢に入れてあるのです。」

22 アグリッパはこの話に興味を示しました。「ほう、直接、その男の話を聞いてみたいものですな。」

「では、明日お聞きいただきましょう。」

23 翌日、盛装した王とベルニケが、司令官たちや町の有力者たちと連れ立って法廷に入ると、フェストはパウロを引いて来いと命じました。

24 まずフェストが立ち上がり、演説しました。「アグリッパ王、ならびにご列席の皆

さん。この地方のユダヤ人もエルサレムのユダヤ人も、この男の死刑を要求しております。25しかし、私の見る限り、彼は何も死刑にあたるようなことはしていないのであります。ところが、この男が自分でカイザルに上訴しましたので、私は、彼をカイザルのもとに送ることに決めたしだいです。26しかし、皇帝に何と書き送ったらよいでしょう。告訴できるだけの理由が何もないのですから。それで皆さんの前に、特にアグリッパ王の前に連れてまいりました。皆さんに調べていただき、何と書いたらいいか教えていただきたいのです。27何の理由もなく、囚人を皇帝陛下のもとに送るのは、はなはだ理屈に合わないことだからです。」

二六

アグリッパに答える

1アグリッパはパウロに、「さあ、おまえの言い分を話せ」とうながしました。そのアグリッパに敬意を表してから、パウロは話し始めました。

2「アグリッパ王。あなた様の前で釈明できますことを、たいへん光栄に存じます。3あなた様がユダヤ人のおきてと習慣に特に精通しておられるからです。どうぞ忍耐してお聞きくださいますように。

4このことは、ユダヤ人もよく知っているのですが、私はタルソで生まれ、エルサレムで、ユダヤ教徒としての徹底した訓練を受け、それにふさわしく生きてまいりました。5また、ユダヤのおきてと習慣を守ることでは、最も厳格なパリサイ派の一人でした。その気さえあれば、ユダヤ人も簡単に証言できることです。6しかし、彼らが訴えたいのは、そんなことはありません。私が、先祖に与えられた約束の実現を待ち望んでいることが、彼らの気に入らないのです。7イスラエルの十二の部族は、私と同じ希望をいदैて昼も夜も努力してきたというのに……。王よ。それが、私だけ罪に問われるとは、理にかないません。8死人の復活を信じるのが犯罪でしょうか。神様が人間を復活させることは、そんなに信じがたいことでしょうか。

9かつて私は、ナザレのイエスの弟子は撲滅すべきだと堅く信じていました。10ですから、祭司長たちの手先になり、エルサレムでクリスチャンを片っぱしから投獄し、裁判の時には、死刑に賛成の票を投じました。11また、クリスチャンに、キリストを冒瀆することばを吐かせるためには手段を選ばず、拷問を加えることもしばしばでした。それほど激しく反対していた私ですから、遠く外国まで迫害の手を伸ばそうとしたのも、不思議はありません。

12ところが、何もかも祭司長たちから任され、そのつもりでダマスコに向かう途中、13あれは、ちょうど正午ごろでしたが、太陽よりもまばゆい光が、天から私と連れの者とを照らしたのです。14私たちはみな、その場に倒れました。その時です。私は、ヘブル語でこう語りかける声を聞いたのです。『パウロ、パウロ。なぜわたしを迫害するのか。そんなことをしたら、自分が傷つくばかりだよ。』

15『あなた様は、いったいどなたです?』と私は尋ねました。

すると主は言われたのです。『わたしかね、わたしは、あなたが迫害しているイエスだ。

16 さあ、立ちなさい。あなたに姿を現わしたのは、あなたを、わたしに仕える者、またわたしの証人として任命するためだ。あなたは、このことをはじめとして、これからあとも、わたしがあなたに現われて示す多くのことを、世界中に語り伝えなければならないのだ。17 心配はいらない。あなたを、ユダヤ人からも外国人からも守ろう。あなたを外国人のところに派遣するのだから。18 人々の目を開き、自分のほんとうの姿に気づかせ、罪を悔い改め、悪魔の暗やみから出て、神様の光の中に生きようようにするために。わたしを信じる信仰によって、彼らは罪の赦しを受け、きよくされたすべての人々と共に、神様の相続財産を受けるようになるのだ。』

19 それで、アグリッパ王よ。私はこの天からの幻に従ったのでございます。20 ダマスコを手はじめに、エルサレム、ユダヤ全国、さらに外国人にも、すべての人が罪を捨てて神様に立ち返り、それを良い行ないで示さなければならない、と宣傳伝えてきました。

21 このために、ユダヤ人は私を神殿でつかまえ、殺そうとしたのです。22 しかし神様のお守りがあったので、私は今日まで生きながらえ、身分の高い人にも低い人にも、あらゆる人にこのことを伝えているのです。私は、預言者とモーセが語ったこと以外、何も話してはおりません。23 私が話しているのは、キリストは苦しみを受け、死人の中から最初に復活して、ユダヤ人にも外国人にも光をもたらす、ということだけです。」

24 ここで突然、フェストが大声をあげました。「パウロ、気が狂ったかっ！あまり学問に身を入れすぎて、おかしくなったな。」

25 「何をおっしゃいます、フェスト閣下。気など狂ってはおりません。まじめに真理を語っているだけでございます。26 アグリッパ王はよくご存じのはずです。そう確信しておりますから、率直に申し上げているのです。これはみな、片すみで起こったことではないのですから。27 アグリッパ王、あなた様は預言者を信じておられますか。もちろん、信じておられるものと確信しておりますが。」

28 アグリッパは、パウロのことばをさえぎりました。「おまえは少しばかり話しただけで、余をクリスチャンにしようというのか。」

29 「お話ししたことが短かろうと長かろうと、そんなことはかまいません。私がひたすら神様にお願いするのは、あなた様をはじめ、ここにおられる皆さん全部が、私と同じようになってくださることです。もちろん、この鎖につながれることは、別ですが……。」

30 ここで王と総督とベルニケ、またほかの人たちもみな席を立ち、出て行きました。31 あとで話し合った結果、一致した意見は、「あの男は、死刑や投獄にあたることは何もしていない」ということでした。

32 アグリッパはフェストに、「カイザル（ローマ皇帝）に上訴さえしていなければ、自由の身になれたものをなあ」ともらしました。

二七

ローマ目指して

1 ようやく、船でローマに向かう手はずが整い、数人の囚人といっしょに、パウロは、ユリアスという親衛隊の士官に引き渡されました。 2 私たちが乗り込んだ船は、トルコ沿岸の幾つかの港に寄港して、ギリシヤに向かうことになっていました。 テサロニケ出身のギリシヤ人アリスタルコも同行したことを、書き添えておきましょう。

3 翌日、船はシドンに入港しました。 ユリアスはパウロにとっても親切で、上陸して友人を訪問したり、もてなしを受けたりすることを許可してくれました。 4 やがて、そこを出帆しましたが、まずいことに、向かい風が吹いてきました。 予定の進路をあきらめなければなりません。 キプロスの北側の島と本土との間を通ることになりました。 5 あとは、そのままキリキヤとパンフリヤの沿岸を航行して、ルキヤ地方のミラに入港しました。 6 ここで、親衛隊の士官は、アレキサンドリヤから来た、イタリア行きのエジプト船を見つけ、私たちを乗り込ませました。

7 8 数日の間たいへんな航海を続け、ようやくクニドはもう目と鼻の先という所まで来ましたが、風があまり強くなったので、サルモネ港の沖を通り、クレテの島陰を進みました。 ひどい風に苦労しながら、島の南岸をゆっくり進んで、やつのことでラサヤ近くの「良い港」と呼ばれる所にたどり着きました。 9 そこに数日とどまりましたが、もう秋分も過ぎ、天候も、長期の航海には危険な時期になっていました。 パウロは航海士たちに忠告しました。

10 「皆さん。 このまま進んだら、きっとひどい目に会いますよ。 難破して積荷を失うだけならまだしも、けが人や死者が出るかもしれません。」 11 しかし囚人を護送している士官は、パウロのことばよりも、船長や船主のことばに耳を傾けたのです。 12 その上、この「良い港」は吹きさらしの場所で、冬を越すには適していないこともあって、大部分の船員も、海岸沿いにピニクスまで行き、そこで冬を過ごしたほうが良いと主張しました。 ピニクスは北西と南西だけが入口になっている良港でした。

13 折からおだやかな南風が吹き始め、絶好の航海日和と思われたので、船は錨を上げ、沿岸を進み始めました。 14 15 ところが、それもつかの間、突然天候が変わり、ひどい暴風〔ユーラクロン〕が襲ってきて、あっという間に船は沖へ沖へと押し流されました。 最初のうちは、なんとか岸へ引き返そうと必死で船を操作した人々も、どうしても手のつけようがないとわかると、すっかりあきらめ、船は吹き流されるままでした。

16 しかし、ようやくクラウドという小島の陰に入り、ほっとひと息です。 引いていたボートを、なんとか甲板に引き上げ、 17 船をロープで縛って、船体を補強しました。 また、アフリカ海岸の浅瀬に乗り上げないように、船具をはずし、風に流されるままにしました。

18 翌日、波はさらに高くなり、船員たちは積荷を捨て始めました。 19 その翌日には、もう手当たりしだい、船具までも捨てざるをえなくなりました。 20 来る日も来る日も恐ろしい嵐は荒れ狂い、最後の望みも絶たれました。

21 長い間、だれも食事をしていません。 パウロは船員たちを呼び集め、こう言いまし

た。「皆さん。最初から私の忠告を聞いて、『良い港』を出なければよかったのですよ。そうすれば、こんな目に会わなくてすんだのです。 22でも、元気を出しなさい。船は沈みますが、だれも死にはしません。

23ゆうべ、私の仕えている神様からの御使いが、そばに立ち、こう知らせてくれたのです。

24『恐れることはない。パウロ。あなたはまちがいなく、カイザル（ローマ皇帝）の前で裁判を受けるのです。そればかりか、神様はあなたの願いを聞き届け、同船の人たち全員のいのちも救ってくださいます。』

25さあさあ、元気を出して、出して。私は神様を信じています。神様がおっしゃることにはうそはありません。 26やがて、私たちはある島に打ち上げられるでしょう。」

27嵐になって十四日目のことです。船はアドリヤ海を漂流していました。真夜中ごろ、水夫たちは陸地が近いと感じました。 28それで水深を測りました。四十メートルほどです。またしばらくして測ってみました。今度は三十メートルになっています。

29この調子では、もうまちがいありません。岸は近いのです。そこで海岸付近の岩場に乗らないようにと、船尾から錨を四つ降ろし、祈りながら夜明けを待ちました。

30数人の水夫が、船を捨てて逃げようと、船首から錨を降ろすふりをしながら、救命ボートを降ろそうとしました。 31それを見たパウロは、いち早く兵士たちや士官に、「あの人たちがいなきゃ、助かる見込みはありませんよ」と言ったので、 32兵士たちは綱を切り、ボートを海に落としてしまいました。

33ついに夜明けの光がさし始めたころ、パウロは全員に、食事をするように勧めました。

「皆さんは、今日で二週間も、食べ物を口にできていないじゃありませんか。 34さあ、食事をしましょう。皆さんの髪の毛一本も失われないのですから。」

35こう言うと、パウロは乾パンを取り、皆の前で感謝の祈りをしてから、割って食べ始めたのです。 36それでだれもが元気づけられ、いっしょに食べ始めました。 37上船していた人は、全部で二百七十六人でした。 38食事のあと、積んでいた麦を全部投げ捨て、船を軽くしました。

#### 難船

39夜が明けると、どこかの海岸線かはわかりませんが、砂浜のある入江が見えます。それで、岩の間をぬって砂浜まで行けるかどうか相談しました。 40そして、ついに決行と決まりました。まず錨を切り捨て、かじ綱を解き、前の帆を上げ、浜に向かって進みました。 41ところが、砂州に乗り上げてしまい、船首は深くめり込み、船尾は激しい波でこわれ始めたではありませんか。

42兵士たちは、囚人がてんでに泳いで逃げると困るから、いっそ殺してはどうか、と士官に勧めました。 43しかし、ユリアスはパウロを助けたかったので、聞き入れません。そして全員に、泳げる者は海に飛び込んで陸に上がり、 44泳げない者は、板切れや、こわれた船の破片につかまって行くようにと命じました。こうして、全員が無事に上陸

できたのです。

二八

1 2 ところがマルタと呼ばれる島であることは、すぐにわかりました。 島民はとても親切で、雨と寒さでぶるぶる震えていた私たちを暖めようと、浜辺でたき火をしてくれました。

3 パウロが一かかえの木切れをたばねて火にくべると、熱気でまむしがい出し、手に巻きつきました。 4 島の人たちは、まむしがぶらさがっているのを見て、「きっと人殺しなんだよ。 海からは助かって、正義の女神がお見のがしにはならないんだね」と、ひそひそささやき合いました。

5 ところがパウロは、平気な顔でまむしを火の中に払い落とし、ぴんぴんしています。 6 人々は、今にも、はれ上がるか、突然倒れて死ぬのではないかと、息を殺していました。しかし、いくら待っても、いっこうに何も起こりません。 今度は、パウロを神だと考えるようになりました。

7 この浜辺の近くに、島の首長ポプリオの領地がありました。 首長は私たちを招き、三日間も親切にもてなしてくれました。 8 ところが、ポプリオの父が高熱と赤痢で苦しんでいるというので、パウロが行って、彼のために祈り、手を置いて治してやりました。 9 これを聞くと、島中の病人がぞくぞく詰めかけ、みんな治してもらいました。 1 0 それで彼らは、私たちを非常に尊敬し、また出帆の時には、旅に必要なあらゆる品物を、船に積み込んでくれました。

1 1 難破してから三か月後、今度は、この島で越冬していた、アレキサンドリヤの「ふたごの兄弟号」という船に乗り込むことになりました。 1 2 最初の寄港地はシラクサで、三日間停泊し、 1 3 そこからずっと遠回りして、レギオンに行きました。 一日すると南風が吹き始めたので、翌日には、順調にポテオリまで進むことができました。 1 4 そこで数名のクリスチャンに出会い、勧められるままに七日間世話になってから、ローマに向かいしました。

1 5 私たちのことを聞いて、ローマのクリスチャンたちは、わざわざ、アピア街道のポロまで迎えに来てくれました。 トレス・タベルネという所で落ち合う人たちもいました。パウロが、この人たちに会えたことを心から神に感謝し、勇気づけられたことは言うまでもありません。

ついにローマ

1 6 ローマに着くと、パウロは、兵士の監視のもとではありましたが、好きな所に住んでもよいことになりました。 1 7 到着して三日後には、パウロは地元のユダヤ人の指導者たちを呼び集め、話をしました。

「皆さん。 私はだれに危害を加えたわけでもなく、ご先祖様の習慣を破った覚えもないのに、エルサレムでユダヤ人につかまり、訴えられて、ローマ政府の手に渡されました。

1 8 取り調べの結果、一たんは釈放と決まりました。 ユダヤ人の指導者たちが主張するような、死刑にあたる罪は認められなかったからです。 1 9 ところが、ユダヤ人がこの

決定に異議を申し立てたのです。 同胞を訴えるつもりは、つゆほどもありませんが、これでは、しかたありません。 カイザル（ローマ皇帝）に上訴しました。 20 今日、皆さん方をお招きしたのは、お近づきになりたかったからです。 また、私が捕らわれの身なのは、メシヤ（救い主）様が来られたと信じているためだと、わかっていただきたかったからです。」

21 ユダヤ人たちは答えました。「私たちは、あなたのことは何も聞いていません。 ユダヤから手紙も来ていませんし、エルサレムから来た人たちからも、そのような報告を受けてはいません。 22 しかし私たちは、あなたの信じていることを、あなたの口からお聞きしたいのです。 クリスチャンについて、私たちの知っていることと言えば、彼らが至る所で非難的だということだけなのですから。」

23 彼らはこうして日を決め、さらに大ぜいでパウロの家に来ました。 パウロは彼らに、神の国のことを語り、またモーセの律法から預言者の書に至るまで、聖書のありとあらゆる箇所を使って、イエスのことを教えました。 話は、朝からえんえん、夕方まで続きました。

24 信じる人もいれば、信じない人もいるというぐあいで、人さまざまです。 25 しかし、ああでもない、こうでもないと言い合いながら帰る彼らの耳には、いつまでも、パウロの最後のことが響いていました。「聖霊様が預言者イザヤを通してお語りになったことは正しかったのです。

26 『ユダヤ人に告げよ。

「あなたがたは聞くには聞くが理解しない。

見るには見るが認めない。

27 心は肥えて鈍くなり、

耳も遠く、目も閉じられている。

見もせず、聞きもせず、理解もしない。

わたしに立ち返って、いやされようとしなさい。』

28 29 だから、よく覚えておきなさい。 神様のこの救いは、外国人に与えられました。

彼らはこの救いを受け入れるでしょう。」

30 パウロはそれからまる二年の間、借家に住み、訪れる人たちを歓迎し、 31 大胆に神の国と主イエス・キリストのことを語りました。 それを妨げる者はだれもいませんでした。

■